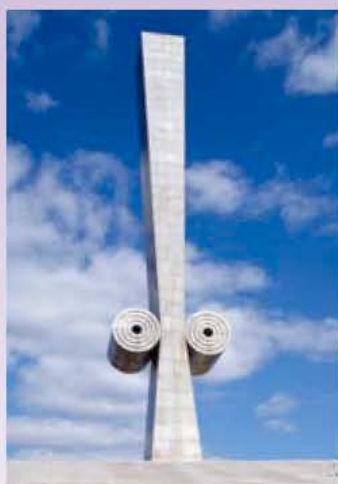




平成23年度
全国の戦災の追悼施設・追悼式

近畿



平成23年11月

平成 2 3 年度
全国の戦災の追悼施設・追悼式

近 畿

平成 2 3 年 1 1 月



三重県 桑名市 「桑名空襲犠牲者追悼式」



京都府 京都市 「空爆被災を記録する碑」



滋賀県 近江八幡市 「近江八幡市平和祈念式」

※写真提供 近江八幡市



大阪府 大阪市 「大阪大空襲 京橋駅爆撃被災者慰霊碑」他



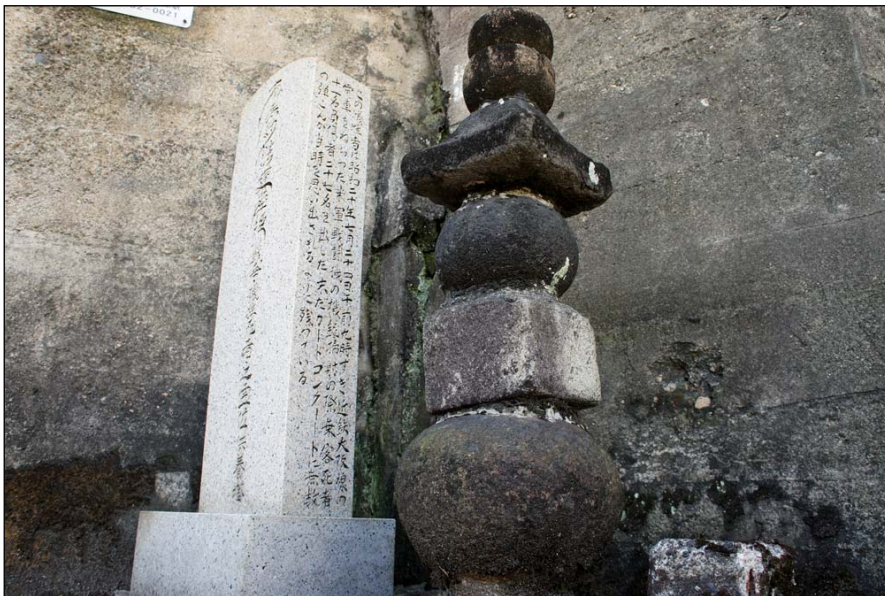
兵庫県 神戸市 「神戸空襲犠牲者合同慰霊祭」

※写真提供 神戸空襲を記録する会



和歌山県 和歌山市 「和歌山大空襲戦没者追悼法要」

※写真提供 和歌山新報社



奈良県 宇陀市 「榛原空襲供養塔」

平成23年度
全国の戦災の追悼施設・追悼式

趣 旨

この報告書は、戦争を知らない若い世代の方々に、地元にも空襲があったということを知っていただき、機会があれば訪ねる際の案内として使えるように、どなたでも訪ねることの出来る追悼施設、どなたでも参加することの出来る追悼式を対象に、平成２３年度の総務省の委託事業として弊社が行ったものです。

今年度は近畿地方を調査対象として実施いたしました。この報告書を契機として、追悼施設や追悼式に込められた深い悲しみに思いを致していただけると、考えております。

なお、許可なく立ち入ることができない個人や学校等の敷地内の追悼施設や事前申し込みが必要な追悼式は除外しています。

最後になりましたが、この調査をするにあたってご協力いただいた皆様に、深く感謝いたします。

株式会社 NHKグローバルメディアサービス

注 釈

- 当報告書は、近畿地区の空襲や艦砲射撃等の戦災に関係する主な追悼施設、追悼式を掲載しています。
(「戦没者」との合同形式も含みます)
- 調査、編集は、平成２３年６月より同年１１月末に行なっています。
- 学校・企業・個人の敷地内にあり、入場に制限がある追悼施設に関しては、掲載を見合わせています。
- 追悼式に関しては、開催時期、開催主旨、参列条件、情報不足等の理由により掲載できなかったものもあります。
- 客観性、公平性を保つため、追悼施設に関しては、所在地や建立年等の事実関係を記した基本情報と碑文の掲載のみに留めています。また、慰霊碑、祈念碑等に「説明文(板)」が付属する場合は併せて掲載しています。なお、碑文、説明文の情報が少ない場合は、関係資料等に記載されているものを「経緯」として掲載しています。追悼式に関しては、主催者、関係者から提供を受けた式次第、式辞または挨拶文を基本的に原文のまま掲載しています。
- 連絡先については、施設の管理者又は式の主催者の許可を得た上で、発行時現在のものを掲載しています。許可を得られなかったもの等は掲載していません。

※掲載写真の無断複写、複製、転載を禁じます。

目次

三重県

津市	1 津市戦没者戦災犠牲者追悼式	2
	2 勤労働員学徒爆死者の供養塔	4
	3 神戸国民学校の教員殉職碑	6
	4 谷中平和の碑	8
四日市市	5 四日市空襲殉難碑	10
	6 四日市空襲犠牲者慰霊献花式	11
伊勢市	7 伊勢市戦争犠牲者追悼式	12
	8 平和祈念碑	14
松阪市	9 松阪市戦没者追悼式	16
桑名市	10 桑名市戦没者追悼式	18
	11 桑名空襲慰霊之碑	20
	12 桑名空襲犠牲者追悼式	21
鈴鹿市	13 平和の礎（貝の涙）	22
志摩市	14 志摩市戦没者追悼式	24
北牟婁郡 紀北町	15 三野瀬駅空襲犠牲者慰霊地藏	26

滋賀県

近江八幡市	1 近江八幡市平和祈念式	30
湖南市	2 湖南市平和祈念のつどい	32
東近江市	3 殉国碑	34

京都府

京都市	1 空爆被災を記録する碑	38
	2 霊山観音	40
	3 春季・秋季慰霊大法要	41
舞鶴市	4 鎮魂碑	42
	5 舞鶴空襲犠牲者合同慰霊祭	43
城陽市	6 城陽市戦没者追悼式	44
長岡京市	7 平和祈念碑	46
	8 平和祈念碑献花式	47

大阪府

大阪市 都島区	1 大阪大空襲 京橋駅爆撃被災者慰霊碑 他	50
	2 京橋駅空襲被災者慰霊祭	51
	3 平和よ永遠なれ	52
	4 祈平和碑	54
	5 護謨地藏尊	56
港区	6 港区戦災死者有縁無縁精霊碑	58
	7 元波除警防団員戦災死者之碑・慰霊之碑	60
浪速区	8 南無妙法蓮華経 法界供養塔	62
	9 戦災無縁諸霊菩提	64
東淀川区	10 戦災犠牲者慰霊塔	66
	11 戦災犠牲者追悼法要	67
	12 柴島町・浜町戦災犠牲者慰霊塔	68
	13 戦死者戦災者慰霊塔	70
旭区	14 平和地藏尊 爆撃犠牲者之精霊 千人塚	72
	15 城北公園千人塚慰霊法要	73
	16 平和観音	74
	17 延命地藏尊	76
福島区	18 被爆者慰霊 平和之碑	78
東住吉区	19 田辺模擬原爆投下跡地	80
	20 7・26 田辺の模擬原爆追悼式	81
北区	21 明倫観世音菩薩	82
	22 空襲慰霊法要	83
西区	23 和光地藏尊	84
	24 西六平和塔	86
中央区	25 大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場「刻の庭」	88
	26 1945 年の母子像	90
	27 水舌地藏尊	92
西成区	28 戦災無縁諸霊菩提	94
阿倍野区	29 慰霊塔	96
	30 遭難供養之碑	98
西淀川区	31 被爆者鎮魂碑	100
	32 柏里子安地藏尊	102
堺市	33 堺大空襲を偲び平和を祈念する碑	104
	34 堺市戦災死没者慰霊祭	105
	35 堺市戦災殉難之地	106
	36 堺空襲犠牲者殉難地追悼会	107
	37 戦災無縁地藏尊	108
	38 堺戦災無縁地藏尊慰霊祭	109
	39 堺市戦没者・戦災物故者追悼式	110
	40 熊野学区 戦死・戦災死者追悼之碑	112
	41 堺市平和塔	114

豊中市	42	豊中市戦没者並びに空爆犠牲者追悼式	116
	43	大阪市戦災犠牲者慰霊塔	118
	44	三国航空機材戦災死者慰霊碑	120
	45	憶念	122
	46	てしまの塔	124
	47	慰霊碑	126
高槻市	48	高槻市戦没者追悼式	128
東大阪市	49	東大阪市戦没者慰霊塔	130
守口市	50	守口市戦没者追悼式	132

兵 庫 県	135
-------	-----

神戸市 東灘区	1	旧本庄村 空襲犠牲者慰霊碑	136
兵庫区	2	神戸大空襲犠牲者慰霊碑	138
	3	福原地区空襲被災者供養塔	140
	4	戦災・震災復旧モニュメント	142
	5	神戸空襲犠牲者合同慰霊祭	144
	6	大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント	146
	7	戦災殉難者慰霊碑	148
	8	神戸空襲犠牲者之霊供養塔	150
	9	五人の乙女の慰霊碑	152
中央区	10	慰霊碑	154
須磨区	11	戦災者供養塔	156
姫路市	12	姫路市戦没者追悼式	158
	13	空爆の碑	160
尼崎市	14	平和塔	162
明石市	15	明石市戦没者戦災死没者追悼式	164
	16	明石空襲の碑	166
	17	太平洋戦争明石市被爆 犠牲者無縁之慰霊塔	168
	18	慰霊塔供養祭	169
	19	戦災死者精霊碑	170
	20	「川崎航空機 明石工場」の慰霊塔	172
	21	川崎重工業慰霊祭	173
	22	みがわり地蔵尊	174
西宮市	23	西宮市戦災・交通犠牲者供養之塔	176
芦屋市	24	芦屋市戦没者合同追悼式	178
	25	太平洋戦争空爆殉難者之墓	180

奈良県	183	
宇陀市	1 榛原空襲供養塔	184

和 歌 山 県	187
---------	-----

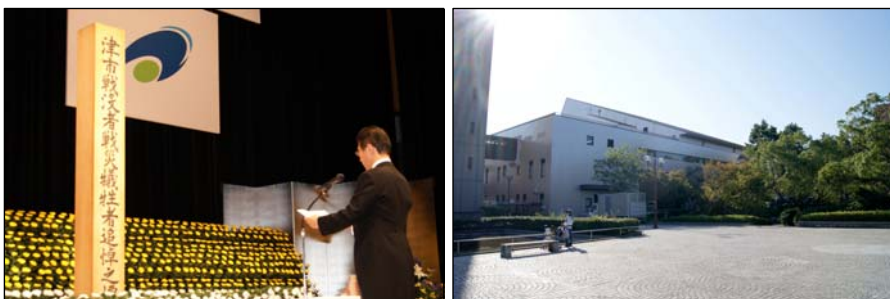
和歌山市	1	戦災殉難者供養塔	188
	2	和歌山市戦災死者追悼法要	189
	3	中橋地藏尊	190
	4	和歌山大空襲戦没者追悼法要	191
海南市	5	戦災死者慰霊地藏尊	192
	6	下津町戦災死没者慰霊祭	194
有田市	7	有田市戦没者戦災死者追悼式	196
新宮市	8	戦災震災 復興顕彰	198
	9	慰霊塔	200

全 国	203
-----	-----

兵庫県 姫路市	1	太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔	204
	2	太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式	206

三重県

1 津市戦没者戦災犠牲者追悼式



開催概要（平成23年度）

歳事名：津市戦没者戦災犠牲者追悼式

会場：津リージョンプラザ

（近鉄電車 津新町駅 徒歩10分）

日時：10月27日（木） ※例年10月下旬開催

参列者数：440人

連絡先：津市健康福祉部 福祉政策課 059-229-3283（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式のことば：津市副市長
2. 黙とう
3. 式辞：津市長
4. 追悼のことば：津市議会議長、遺族代表
5. 献花
6. 平和のちかい：津市長
7. 閉会のことば：津市健康福祉部長

式辞（平成23年度）

本日ここに、多数のご遺族並びにご来賓の皆様をお迎えし、「平成二十三年度津市戦没者戦災犠牲者追悼式」を挙げるにあたり、津市を代表し、謹んで哀悼の言葉を申し上げます。

私が小学生の頃、祖母が津の空襲について語ってくれました。祖母は、当時の宿屋町、現在の東丸之内に住んでおり、昭和二十年のたび重なる激しい空襲のたびに防空壕へ逃げ込み、空襲警報が鳴りやんで外へ出てみると、降り注ぐ焼夷弾によって、生家も町並みも焼き尽くされ、焦げ臭さが一面にただよっていたという話です。

祖母にとっては、思い出すのも辛い経験だったのですが、多くの尊い命が失われ、見るも無惨な焼け野原にたたずんだ苦しすぎる思い出を通じ、戦争とはいかに悲惨なものであるかを伝えずにはいられなかったのでしょう。

ありのままの過去の光景を見つめ、語る祖母の苦渋の顔つきが、私の脳裏に今も鮮明に焼きついて離れません。

戦後生まれの私にとって、祖母の体験談は戦争の悲惨さと、おろかさについて、身をもって教えてくれたものであり、戦争を知らない私の心にも、深く悲しく刻まれております。

祖母の二人の弟は、祖国に残してきた父母や姉を案じつつ、雪の舞う中国大陸、そして灼熱のニューギニアで、激しい戦いの中で銃弾に倒れ、帰らぬ人となりました。

同じように戦禍に遭われ、尊い命を亡くされた皆様が無念さをしのぶとき、言葉で言い表せない苦しみや哀しみがこみ上げてまいります。

かけがえのない最愛の肉親を失い、決して癒されることのない深い悲しみを胸に、幾多の苦難を乗り越えてこられましたご来臨の皆様のご心労や血のにじむようなご努力に対しまして、深甚なる敬意を表する次第でございます。

先の大戦が終わりを告げてから既に六十六年が過ぎ去りました。戦後日本は、荒廃と焦土の中から復興への道を歩み始め、世界的にも目覚ましい経済発展を遂げてまいりました。

現在、当たり前のように享受している平和と繁栄が、多くの犠牲者と、深い悲しみを背負い、廃墟の中から今日まで歩んでこられた皆様方のご労苦の上に築かれていることを決して忘れることなく、私たちは、将来を担う次の世代に戦争の悲惨さ、命の尊さ、そして、平和の大切さを伝えていかなければなりません。

今、世界の各地で紛争や衝突が起こり、人々の尊い血が流れています。

不安が取り巻く現代であるからこそ、今を生きる私達が本当の意味で、「平和の尊さ」を見つめ直していくことが大切であります。

平和への気持ちこそが、人間の本質そのものであると思います、その実現のために一丸となって前進していかなければならないと思います。

私はこの式典に当たり、先の大戦から学び取った多くの教訓を胸に、二度とこのような戦争が繰り返されることのないよう、平和への誓いを新たにしております。

最後になりましたが、戦没者・戦災犠牲者の皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族並びに関係者の皆様方の今後のご平安を切に祈念いたしまして、式辞といたします。

平成二十三年十月二十七日

津市長 前葉 泰幸

2 勤労働員学徒爆死者の供養塔



基本情報

所在：兵丹池
住所：三重県津市上浜町6
(JR・近鉄電車・伊勢鉄道 津駅 徒歩15分)
連絡先：深正寺 059-228-4554
建立者：名古屋市立機械工業学校 卒業生竹秋会
建立年：昭和26年6月24日

碑文

【表】

供養塔

【裏】

昭和二十六年
六月二十四日建立
發起者
名古屋市立
機械工業学校
卒業生竹秋会
津市上浜町
石工 秋田吉之助刻

【右側面】

殉職者氏名
昭和二十年六月二十六日
(氏名)
昭和二十年七月二十四日
(氏名)

【左側面】

殉職者氏名
昭和二十年六月二十六日
(氏名)

説明文

この地藏尊は、昭和二十年の初夏、学徒動員中空襲を受けてこの地で亡くなられた名古屋市立機械工業学校の先生と生徒を追慕し、その友人達が建立したものである。

津市上浜町二丁目 深正寺

十四歳数ヶ月で被爆した私達も七十七歳を迎えます。いついつ迄も平和を願う無言の語り部でありたい。お近くの皆様の暖いご好意に感謝いたしております。

平成十九年六月
工業商業 墓参会

3 神戸国民学校の教員殉職碑



基本情報

所在：都合により記載せず
住所：三重県津市神戸字小世古1680-1
(近鉄電車 津新町駅より 三重交通バス「神戸小学校口」下車 徒歩2分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：昭和四十一年度 津市立神戸小学校 PTA役員、教員一同
建立年：昭和42年4月7日

碑文

【表】

慰霊碑

(故人名)

題字 津市長 角永清書



【裏】

昭和二十年四月七日太平洋戦争当時
学校に於て爆撃(略字)の為殉職す

昭和四十二年四月七日建立

発起人

昭和四十一年度

PTA役員、教員一同

碑石寄贈

(個人名)

4 谷中平和の碑



基本情報

所在：国道39号沿い 不動寺南側
住所：三重県津市美杉町八知（谷中）
（JR伊勢八知駅より 車10分）※JR線は運休中
連絡先：津市美杉総合支所 059-272-8083
建立者：平成7年度 美杉村立八知小学校 在籍児童
建立年：平成8年3月12日

碑文

【表】

平和

【台座・表】

山青く水清らかな谷中
二十軒余の静かな暮らし
一九四五年七月二十四日
昼下がり谷中に爆弾が
落とされた
薬草採りの小学生
川遊びの幼ない児
奪われた尊い七つの命
五十年の時を過ぎて
いまここによみがえる
八知小学校児童の
平和への願いとなって
私達はこの出来事を
忘れまい
人の世の未来のために

平成八年三月吉日

題字は美杉村長 結城敏氏

5 四日市空襲殉難碑



基本情報

所 在： 鶴の森公園
 住 所： 三重県四日市市鶴の森1-251
 (近鉄電車 近鉄四日市駅 徒歩5分)
 連絡先： 四日市市 福祉部 福祉総務課 059-354-8109 (直通)
 建立者： 四日市空襲殉難碑建立委員会
 建立年： 昭和55年6月18日

碑 文

【表】

平和の誓い
 四日市空襲殉難碑

【裏】

殉難碑撰文
 昭和十六年十二月八日に勃発した太平洋戦争は、ポツダム宣言受諾によって、同二十年八月十五日遂に我が国の敗戦に終った。
 この間、アメリカ空軍重爆撃機B29による日本本土への空襲は日ましに激化し 戦機はとどまるところを知らなかった。海軍燃料廠をはじめ多くの工場群を壊した四日市市も、前後六回にわたる苛烈な爆撃により壊滅的被害を受けた。
 わけても最初の爆撃を受けた六月十八日の災禍は惨憺の一語に尽きる。即ち午前零時四十五分頃から約一時間にわたり、B29三十五機の、三万発におよぶ油脂焼夷弾等の連続爆撃により市街地は灼熱のろつぽと化し、退路を断たれた多くの市民は、阿鼻叫喚の巻を彷徨した。炎の犠牲となるもの、壕に閉され窒息死するもの、身をかりみず消火に一命を賭するもの、あわてて八百余名にのぼった。恐怖の一夜が明けると、一望焦土と化した焼跡に、ただ茫然とたたずむもの、未だ硝煙のくすぶる中を、肉親を求めて右往左往するもの、まさに戦争のうたの悲劇である。
 終戦後三十五年を経た今日、各方面の浄財によって、ここに新しく四日市空襲殉難碑を建立しその霊の安らかなることを願ひ、後世悲惨なる戦争の絶滅を期し、世界永久の平和を祈念するものである。

四日市空襲被災記録
 被爆年月日 昭和二十年六月十八日、同二十二年、同二十六年
 同 七月九日、同二十四日、同二十八日
 戦災死者 八百余名
 重軽傷者 一、七三三人
 被災人口 四九、一九八人
 被災戸数 一〇、四七八戸

昭和五十五年六月
 四日市空襲殉難碑建立委員会

6 四日市空襲犠牲者慰霊献花式



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名： 四日市空襲犠牲者慰霊献花式
 会 場： 鶴の森公園 四日市空襲殉難碑 前
 (近鉄電車 近鉄四日市駅 徒歩5分)
 日 時： 平成23年6月18日(土) ※例年6月18日開催
 参列者数： 約30人
 連絡先： 四日市市 福祉部 福祉総務課 059-354-8109 (直通)

式 次 第 (平成23年度)

1. 一同黙祷
2. 市長式辞
3. 献花

式 辞 (平成23年度)

本日、ここに四日市空襲犠牲者慰霊献花が執り行われるにあたり、戦禍の犠牲となられました方々の御霊に対しまして、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

六十六年前の今日、本市は大規模な空襲を受け、市街地は一面の焦土と化しました。八百八人もの尊い命が失われ、罹災者は四万九千九百九十八人にもものぼり、また、家財も焼き尽くされました。ここにご参列の皆様には、愛するご家族を失われ、今なお悲しみの中にあることとご心中をお察しするところでございます。

歳月は流れ、親から子へ、子から孫へと世代が交代しつつありますが、私達はこの惨事を風化させることなく、戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、今日の平和と豊かな生活が、尊い犠牲の上にあることを決して忘れてはなりません。

本市は、かけがえのない地球の平和とわが国の美しい自然を守るため、昭和六十年に非核平和都市となることを宣言し、地球上からすべての核兵器が廃絶される日が来ることを切望しております。

世界ではいまだ戦争、民族紛争、宗教上の対立などが後を絶ちませんが、憲法において永久に戦争を放棄した私達日本人は、同じ過ちを繰り返すことのないよう、最善の努力をしていかなければなりません。

ここに、恒久の平和と不戦の誓いを新たにするとともに、四日市空襲犠牲者の御霊の永久(とわ)に安らかならんことをお祈り申し上げ、また合わせて、本日ご参列の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、追悼の言葉とさせていただきます。

平成二十三年六月十八日
 四日市市長 田中 俊行

7 伊勢市戦争犠牲者追悼式



※写真提供 伊勢市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：伊勢市戦争犠牲者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：伊勢市生涯学習センター「いせトピア」多目的ホール
 (JR・近鉄電車 伊勢市駅より 三重交通バス「いせトピア」下車 徒歩2分)
 日時：平成23年10月21日(金) ※例年10月中旬～下旬開催
 参列者数：291人
 連絡先：伊勢市健康福祉部 生活支援課 0596-21-5557 (直通)

式次第 (平成23年度)

1. 開式の辞
2. 「君が代」斉唱
3. 黙 祷
4. 式 辞：伊勢市長 鈴木健一
5. 追悼の辞：伊勢市議会議長、伊勢市連合遺族会会長、伊勢市総連合自治会会長
6. 来賓紹介
7. 電報披露
8. 献 花：伊勢市長、伊勢市議会議長、伊勢市連合遺族会会長、伊勢市総連合自治会会長、
遺族代表(女性部、遺児部等)、来賓
9. 閉式の辞

式 辞 (平成23年度)

本日ここに、多数のご遺族、ご来賓の皆様をお迎えして、平成23年度伊勢市戦争犠牲者追悼式を執り行うにあたり、戦没者、戦災死没者、引揚物故者の御霊に対しまして、謹んで哀悼の誠を捧げます。
 時の流れは早く、数多くの尊い命が失われた先の大戦から、66年の歳月が過ぎ去りました。苛烈を極めた戦闘の中で、愛する家族を案じつつ戦場に倒れた方々、激しい空襲によって命を落とされた方々、そして戦後、異郷の地で無念にも最期を遂げられた方々に思いをさせるとき、今なお悲痛の思いが胸に込み上げてまいります。

ここに、改めて戦争犠牲者の方々のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

また、ご遺族の皆様方におかれましては、最愛の肉親を失い、癒されることのない深い悲しみを背負いながら、数々の苦難を乗り越えてこられました。皆様のご苦労に対しまして、深く敬意を表する次第でございます。

戦後、わが国は、一貫して平和の道を歩み、国民のためめ努力により幾多の困難を克服し、世界に類を見ないほどの発展を遂げてまいりました。

しかしながら、現在、私たちが享受している平和と繁栄が、多くの尊い犠牲の上に成り立っているという事実を、決して忘れてはなりません。過去を謙虚に振り返り、悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくことは、今を生きる私たちに課せられた重要な使命であります。

一方、世界に目を転じますと、各地で武力による争いが繰り返され、今もなお、多くの人々が尊い命を失っています。世界の恒久平和の実現は、人類共通の願いであり、私たち一人ひとりが、平和で住みよい社会を築くため、努力を続けていかねばなりません。

さて、本年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の被害をもたらし、数多くの人命、豊かな故郷、穏やかな生活を奪い去りました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。震災から半年以上が過ぎた現在も、懸命に復旧・復興に向けて取り組んでおり、その道のりは非常に厳しいものがありますが、戦後の廃墟から立ち上がり、奇跡的な復興を成し遂げた経験を持てれば、必ずや再生できるものと信じております。

本日私は、散華された方々の祖国発展への思いを深く心に刻み、豊かな自然に恵まれた伊勢の地を、再び戦火にさらすことなく、希望に満ちあふれ、安心して暮らせる伊勢市の実現に向けて、なお一層の努力を重ねることをお誓いいたします。

終わりに、すべての御霊の安らかなご冥福と、ご遺族の皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます、式辞といたします。

平成23年10月21日 伊勢市長 鈴木健一

8 平和祈念碑



基本情報

所在：昌久寺
住所：三重県伊勢市一色町1609
(JR伊勢市駅より 三重交通バス「一色町」下車 徒歩3分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：一色町慰霊碑 建設委員会、個人であり記載せず
建立年：平和記念碑 (一色町慰霊碑 建設委員会) 昭和37年10月
平和記念碑 (個人であり記載せず) 昭和47年10月

碑文

平和記念碑
(3碑の向かって左)

【表】

慰霊碑
(犠牲者20名氏名)
天額 齊藤 昇 謹書

【裏】

各位は大東亜戦争に於て國家の犠牲となる寔に痛惜の情を禁じ得ない茲に町民挙って謹んで各位の霊を弔い深甚の敬意を表して慰霊の碑を建立する
昭和三十七年十月
一色町慰霊碑 建設委員会

平和記念碑
(手前)

【表】

一色町は大東亜戦争に際し昭和二十年六月十五日に戦災を蒙り家財の焼失四十八戸人命の犠牲者十四人及び同年七月二十九日家財の焼失百十三戸人命の犠牲者五人を数えるこの事実は永久に町民の脳裏に深く刻みつけられるであろうここに永遠の平和を祈念する為此の碑を建てる

【裏】

昭和四十七年十月
(個人名) 蔵

9 松阪市戦没者追悼式



※ 写真提供 松阪市（写真は平成22年度のもの）

開催概要（平成23年度）

歳事名：松阪市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：松阪市民文化会館
（JR・近鉄電車 松阪駅より 鈴の音バス「市民文化会館」下車 徒歩1分、車7分）
日時：平成23年11月18日（金） 例年11月中旬開催
参列者数：約1,000人
連絡先：松阪市 福祉事務所 福祉課 0598-53-4089（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式のことば：福祉事務所長
2. 国家斉唱：出席者全員
3. 式辞：市長
4. 一同黙とう：出席者全員
5. 追悼のことば：遺族会連合会会長、市議会議長、県議会議員、遺族代表
6. みたま讃歌斉唱
7. 献花：市長、来賓、遺族代表
8. 遺族代表謝辞：遺族会連合会副会長
9. 閉式のことば：福祉事務所長

式辞（平成22年度）

本日ここに、多数のご遺族の方々をお迎えし、松阪市戦没者追悼式を挙行するにあたり、先の大戦で亡くなられた戦没者すべての「みたま」に、謹んで哀悼の言葉を申し述べます。

先の大戦では、凍てつく大陸で、あるいは灼熱の南方地域で、祖国の平和と発展、そして何より家族の安泰を念じながらも、多くの方々が苛烈な戦場で傷つき、または戦後に至るまで国外に残され、飢えや病気に苦しみながら、帰らぬ人となりました。

内地においても、激しい空襲により、たくさんの尊い命が失われました。ご遺族の皆様、の時を経てもなお癒されることのない深い悲しみと追慕の念に思いを致す時、戦後社会のなかで育てられた私にも万感、胸に迫るものがあります。

私も以前、アフリカの戦地跡において医療活動を行ってまいりました。人が「平和」を壊すのは簡単ですが、その傷跡を回復させ、一人ひとりの幸せな生活を取り戻すことの難しさは、自分自身の肌で感じました。

アメリカのオバマ大統領が「核兵器なき世界」を訴えたものの、アメリカをはじめとした多くの国々が平和に向けた取り組みを具体的に進展させているとは到底思えない現実もあります。

特に、私たちが住む日本においては、先人がいのちを懸けて守ってきたこの国を毅然とした外交姿勢で次の世代に伝えていかねばならないとともに、「戦争なき世界」「核なき世界」という当たり前の理想を貫き続けねばと感じています。

一人ひとりの幸せを守り、将来の世代にまでこの日本の良さ、そして松阪の素晴らしさを残していくためにも、私たちは不戦と恒久平和への誓いを常に心に誓い続けなくてはなりません。

本日の追悼式に臨み、悲しみの歴史を繰り返さないとの決意を新たに、戦争の史実と教訓を風化させることなく、私たちの子どもの、また子どもの世代にまでしっかりと語り継ぎ、不戦と平和を守り、温かくお互いを思いやれる社会の創造に一層の努力を重ねますことを、ここに固くお誓いいたします。

終わりに、戦没者の皆様のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、追悼のことばといたします。

平成二十二年十一月十八日
松阪市長 山中光茂

10 桑名市戦没者追悼式



※写真提供 桑名市

開催概要（平成23年度）

歳事名：桑名市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：桑名市民会館 小ホール
（JR・近鉄電車・養老鉄道 桑名駅、三岐鉄道 西桑名駅 徒歩15分）
日時：平成23年10月7日（金） ※例年10月上旬開催
参列者数：260人
連絡先：桑名市 保健福祉部 福祉総務課 0594-24-1168（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式のことば：桑名市保健福祉部長
2. 国歌斉唱：一同起立
3. 式辞：桑名市長
4. 黙とう：一同起立
5. 追悼のことば：桑名市遺族会副会長、桑名市議会議長、三重県議会議員代表など
6. 献花：来賓ならびに遺族、一般参列者
7. 閉会のことば：桑名市遺族会会長
8. 閉式のことば：桑名市保健福祉部長

式辞（平成23年度）

本日ここに、ご遺族、ご来賓の方々をはじめ、多数の皆様のご臨席のもと、桑名市戦没者追悼式を挙行できますことは、誠に意義深く、謹んで哀悼の誠をささげます。

数多くの尊き命が失われた先の大戦から、早六十六年の歳月が過ぎ去りました。祖国の平和と発展を願い、家族の安泰を念じつつ、苛烈を極めた戦闘の中で、傷つき斃れ、あるいは戦後に至るまで、異境の地に残され、飢えや病に苦しみながら、帰らぬ人となった方々の無念に思いを馳せますと、万感胸に迫る思いでございます。

ここに改めて、戦没者の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

また、最愛の肉親を失われ、決して癒されることのない深い悲しみを胸に、六十六年もの歳月を経た今日に至るまで、長い苦難の道を歩んで来られました、ご遺族の皆様的心情を拝察いたしますと、悲痛の思いが胸に迫ってまいります。

皆様のそのご苦勞に対し、改めて心から深甚なる敬意を表するものでございます。

今日、私たちが当たり前のように享受している平和と繁栄は、戦禍の中で散華された、幾多の重く尊い犠牲の上に築き上げられてきたものでございます。

今日でも世界に目を転じますと、テロや地域紛争が後を絶たず、今もなお、多くの人々が傷つき、苦しんでおり、世界平和への道のりは、いまだ遠いことを痛感せざるを得ません。

こうした現実を前に、私たちは今こそ、戦没者の方々が、かけがえのない命をもって、示された戦争の悲劇さと平和への尊さを、深く心に刻み、未来を担う次の世代にしっかりと継承していかなければなりません。

私たちすべての世代の人々が、悲しみの歴史を繰り返さないとの決意を新たにするとともに、戦没者の方々が、かけがえのない命をもって示された戦争の悲惨さと平和の尊さを、風化させることなく、次の世代へと語り継ぎ、希望に満ち溢れ、健康で心豊かな平和な社会を未来永劫に実現していくことが、私たちに課せられた使命であると信じ、全力を尽くすことを、ここに誓うものでございます。

終わりに、戦争の犠牲となられたすべての方々の御冥福と、御遺族の皆様のご御多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成二十三年十月七日
桑名市長 水谷 元

11 桑名空襲慰霊之碑



基本情報

所 在：貝塚公園
 住 所：三重県桑名市内堀5-2
 （JR・近鉄電車・養老鉄道 桑名駅より 三重交通バス「立教小学校前」下車 すぐ）
 連絡先：桑名市 保健福祉部 福祉総務課 0594-24-1168（直通）
 建 立 者：桑名市
 建 立 年：平成10年7月

碑 文

【表】

桑名空襲慰霊之碑

桑名市長 水谷 元

【裏】

桑名空襲のすがた

太平洋戦争が終結する昭和二十年（一九四五年）七月十七日未明米軍機B29爆撃機九四機が桑名に來襲し、焼夷弾十数万発を投下した。市民の逃げ惑う様子はさながら阿鼻叫喚の生き地獄であった。

さらに七月二十四日の白昼B29爆撃機が1トン爆弾八八発を投下し、これにより多くの尊い命が奪われた。（面積当りの爆弾投下量は七ー一トンで全国一であった）。

この空襲の悲惨さを後世に残すと共に二度とあってはならない戦争の恐ろしさを永きに亘り語り継ぐ礎として、爆撃を受けた貝塚公園に碑を建立する。

罹災状況

罹災地面積 六九一、二〇〇坪
 罹災戸数 六、八三五戸
 罹災者数 二八、四四七人
 死亡者（身元不明者含む） 六五七人

平成十年（一九九八年）七月建立

12 桑名空襲犠牲者追悼式



開催概要（平成23年度）

歳 事 名：桑名空襲犠牲者追悼式
 会 場：貝塚公園 桑名空襲慰霊之碑 前
 （JR・近鉄電車・養老鉄道 桑名駅より 三重交通バス「立教小学校前」下車 すぐ）
 日 時：平成23年7月17日（日） ※例年7月中旬開催
 参列者数：約130人
 連絡先：桑名空襲遺族会事務局（星野方） 0594-22-5912（代表）
 桑名市 保健福祉部 福祉総務課 0594-24-1168（直通）

式 次 第（平成23年度）

1. 開会のことば：桑名空襲遺族会副会長
2. 主 催 者 挨拶：桑名空襲遺族会会長
3. 黙 祷：参加者全員
4. 追悼のことば：桑名市長、桑名市議会議長、三重県議会桑名選出議員代表
5. 献 花：桑名空襲遺族会会長、桑名市長、来賓、遺族代表
6. 電 報 披 露
7. 会引きの言葉：桑名空襲遺族会副会長

概 要

桑名空襲犠牲者追悼式（平成23年7月17日）貝塚公園桑名空襲犠牲者の慰霊の碑は、元は走井山に戦争の戦死者と合同でまつてありましたが、平成10年7月に貝塚公園に桑名空襲犠牲者の方だけ移転いたしました。今日第14回追悼式を7月17日に貝塚公園で行います。

桑名空襲のあゆみは…

第1回目は昭和20年1月31日ハリマの田園と西桑名の山林に各1発爆弾投下、第2回目は3月11日旧東海道と浅川通の民家の庭に投下、第3回目は5月17日坂の下に焼夷弾を民家に投下、15戸を焼き、2名の罹災犠牲者が初めてでました。

第4回目7月17日未明焼夷弾大空襲で市街地は焦土と化しました。17日午前1時25分から2時40分にかけてB-29、94機が100ポンド焼夷弾5、837発、500ポンド焼夷弾2、460発、計8、297発が投下されました。

市街地77%、山本重工30%、三菱重工80%が破壊されました。この空襲で、本町、江戸町、宮通、内堀、元赤須賀と外側から投下され、反転して、鍋屋町、矢田礮が外側に投下され、市街地が明るくなるのを待って中心部に投下され焼野原になりました。

私も最初は防空壕にかくれていましたが、付近に火の手があがって、燃えだしたので、急いで裏の田園に逃げて、土手に身を隠して朝までおりました。死ぬ思いでした。

第5回目は7月24日午前10時55分B-29、123機が500キロ爆弾48発、1トン爆弾794発を桑名駅周辺と東洋ペーリング、堤原、今中町、太一丸、近鉄の鉄橋に投下しました。

最後に7月30日昼中P51艦載機による機銃掃射により三菱重工の社屋に3発落とし、5名が亡くなられました。他にも貝須にも3発落ちました。

罹災戸数6、835戸、罹災者数28、447人、死亡者657人。

13 平和の礎（貝の涙）



基本情報

所在： 弁天山公園
住所： 三重県鈴鹿市算所2
（近鉄電車 平田町駅 徒歩15分）
連絡先： 都合により記載せず
建立者： 弁天山公園モニュメント建立委員会
建立年： 平成2年5月2日

碑文

平和の礎

太平洋戦争もおわりに近い昭和二十年七月二十四日午前
十時三十五分 鈴鹿海軍工廠を目標に米軍機B29が投下した
爆弾が算所地区に落下し死傷者三十余家屋の崩壊
二十数戸羅災するものは実に百六十名を越える
大惨事となった
歲月は流れて四十有余年当時の一寒村も今は
市内有数の繁華街に発展してこの戦禍の史実
を知るものも数少なくなりつつある このたび市民
憩いの広場がこの地に完成を見ることとなった
私達はここに記念碑を建て亡きみ霊を鎮め
今日 心を新たに不戦の誓いを後世に伝え
たい 名づけて平和の礎とし この念願を
故郷に永く据えとどめるものである

平成二年五月二日

弁天山公園モニュメント建立委員会

題字 鈴鹿市長 衣斐 賢譲

14 志摩市戦没者追悼式



※写真提供 志摩市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：志摩市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：志摩市阿児アリーナ ベイホール
(近鉄電車 鵜方駅 徒歩20分、車5分)
日時：平成23年9月2日(金) ※例年9月開催
参列者数：350人
連絡先：志摩市 健康福祉部 地域福祉課 0599-44-0283 (直通)

式次第 (平成23年度)

1. 開式のことば：志摩市副市長 柴原 時男
2. 国歌 斉唱
3. 式辞：志摩市長 大口 秀和
4. 一同黙とう
5. 追悼のことば：志摩市議会議長 小河 光昭
志摩市戦没者遺族会会長 羽根 弘夫
志摩市戦没者遺族会女性部長 仲野 けい子
6. 献花：市長、副市長、教育長
来賓
並びに遺族代表
7. 閉式のことば：志摩市副市長 柴原 時男

式辞 (平成23年度)

本日ここに、多数のご遺族、ご来賓ご臨席のもと、平成二十三年度志摩市戦没者追悼式が厳かに挙行されるにあたり、市民を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

苛烈を極めた先の大戦が終わりを告げてから、六十六年の長い歳月が過ぎ去りました。今、こうして、激しい戦いのさなかに、祖国を思い、家族を案じつつ心ならずも戦場に倒れた方々、また国内外で戦禍に遭われ、命を落とされた方々、あるいは戦後、遠い異郷の地で無念にも最期を遂げられた方々に思いをはせるとき、悲痛の思いが尽きることなく込み上げてきます。

ここに、改めて戦没者の方々のご冥福を、心よりお祈り申し上げるとともに、最愛の肉親を失われ、決して癒されることのない悲しみを抱えながら、苦難を乗り越えてこられたご遺族の皆様のご労苦に、深く敬意を表します。

顧みますと、戦後、私たち国民一人ひとりが努力をし、また、幾多の困難を乗り越えながら、今日の平和で豊かな社会を築いてきました。私たちは、この享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれてきたことを決して忘れてはなりません。

本式典は、わが国並びに本市復興の礎となられた多くの御霊(みたま)に対して、追悼の誠を捧げるとともに、ご遺族の皆様のこれまでの御労苦に対して深い敬意を表するものであり、また、市民の皆様とともに、世界の恒久平和実現への誓いを新たにしようとするものです。

国民の大半が戦争の悲劇を知らずに育った世代である今、先の大戦から学び取った貴重な教訓を深く心に刻み、戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に語り継いでいかなければならないと思います。長い道のりではありますが、真に平和で豊かな社会を実現するため、そして、志摩市のなご一層の発展のために、私は、全力を尽くすことをお誓い申し上げます。

終わりに、本日の追悼式に込めた私たちの思いが、未だ戦火の絶えない世界にも届くことを念願するとともに、戦没者の御霊の「とこしえに安らかならん」ことを、そして、御遺族の皆様のご多幸、ご健勝をお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成二十三年九月二日
志摩市長 大口 秀和

15 三野瀬駅空襲犠牲者慰霊地蔵



基本情報

所在：三浦墓地
住所：三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦182付近
(JR三野瀬駅 徒歩1分)
連絡先：海蔵寺 都合により記載せず
建立者：都合により記載せず
建立年：昭和53年8月

碑文

【中央・表】

寄贈

昭和五十一年二月

海山町

相賀栄町

伊藤石材店

【右・表】

施主

(個人名)

【左・表】

昭和五十三年八月

(個人名)

経緯

昭和20年7月25日 ― 停車中の上下列車が機銃掃射を受け、
死者13名(資料によって死者数は異なる)を出した。

出典：三重県戦争資料館 ホームページより

滋 賀 県

1 近江八幡市平和祈念式



※写真提供 近江八幡市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：近江八幡市平和祈念式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：近江八幡市文化会館 大ホール
 (JR・近江鉄道 近江八幡駅 徒歩15分)
 日時：平成23年8月6日(土) ※例年8月上旬開催
 参加者数：約650人
 連絡先：近江八幡市 福祉子ども部 地域福祉課 0748-36-5508 (直通)

式次第 (平成23年度)

【第1部】平和祈念式

1. 開式の辞：近江八幡市平和祈念式実行委員会委員長
2. 黙とう
3. 式辞：近江八幡市長
4. 追悼の言葉：近江八幡市遺族会会長
5. 来賓あいさつ：滋賀県知事・滋賀県遺族会会長
6. 来賓紹介：滋賀県知事・滋賀県遺族会会長・滋賀県議会議員・近江八幡市議会議長
7. 献花：各種団体代表
8. 平和宣言：近江八幡市議会議長
9. 平和の折鶴献呈：市内小学生・中学生代表
10. 平和への誓い：市内中学生・高校生
(作文発表)
11. 平和への賛歌：近江八幡児童合唱団
12. 閉式の辞：近江八幡市連合自治会会長

【第2部】記念行事

特別講演『恒久平和を願って』 講師 前滋賀県知事・現滋賀県遺族会顧問 國松 善次氏

式 辞 (平成23年度)

本日ここに、ご来賓の方々をはじめ、このように大勢の皆様をお迎えし、第2回近江八幡市平和祈念式を挙行するにあたりまして、8万2千市民を代表して、謹んで戦没者ならびにご参加の皆様へ式辞を申し上げます。

先の大戦が終わりを告げてから、66年の長い歳月が過ぎ去りました。あの激しい戦いのさなか、祖国を思い、家族を案じつつ戦場に散り、あるいは戦後、遠い異郷の地で、無念にも最期を遂げられた方々に思いをはせるとき、尽きることのない深い悲しみが胸にこみ上げてまいります。

ここに、改めて戦没者の方々に哀悼の誠を捧げます。

戦後、私たちは焦土の中から立ち上がり、たゆまぬ努力を積み重ね、平和で豊かな社会を築いてまいりました。本市もその中であって、誰もが住みたくする明るいまちづくりを推し進め、近江八幡に暮らし、歴史と文化に魅力と誇りが実感できる、個性豊かなまちづくりの実現と、市民が希望を持ち、安心して暮らすことができる、活力ある近江八幡市として、誇りがもてる「まち」に成長してまいりました。本市の将来像であります「自然の恵み、歴史と文化に根づく生業が広がり、起業する活力とすべての人々が支え合える、ぬくもり あふれたまち」の創造を目指し、市民の皆さんと、邁進して行く所存であります。

一方で、この実現は日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものであります。今、私たちが享受しているこの平和と繁栄は、戦争により、心ならずも命を落とされた多くの方々の、尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはなりません。真に平和な世界を実現するため、決して戦争を美化することなく、尊い生命を奪い、人々の生活やかけがえのない国土・自然を破壊する戦争の悲惨さや無益さを次の世代に正しく伝えていくことが、今の時代に生きる私たちに課せられた大きな社会的責務であると思う次第であります。

戦後66年が経ち、私たちの意識から戦争の悲惨さ、平和の尊さが次第に薄れていく傾向にあります。戦争の教訓を決して風化させることなく世界の恒久平和を、いかにすれば実現していけるかを市民皆で考える機会にしたいと考え、ここに第2回近江八幡市平和祈念式を開催するものであります。

この平和祈念式で私たち市民は、未来に向かい、二度と戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、平和で豊かな社会を築き、次の世代に引き継ぐため努力することを、ここにお誓い申し上げます。

この、平和祈念式の開催にあたり、今日までご尽力を頂きました実行委員会委員の皆様へ、厚くお礼を申し上げます。

終わりに、本日ご参加の皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成23年 8月 6日
 近江八幡市長 富士谷 英正

2 湖南市平和祈念のつどい（戦没者追悼式・戦争体験講演会）



※写真提供 湖南市

開催概要（平成23年度）

歳事名：第7回 湖南市平和祈念のつどい（戦没者追悼式・戦争体験講演会） ※一般戦災死没者を含む
会場：湖南市共同福祉施設（サンライフ甲西）
（JR甲西駅 徒歩5分）
日時：平成23年8月6日（土） ※例年8月の第1土曜日に開催
参加者数：190人
連絡先：湖南市 健康福祉部 社会福祉課 0748-71-2327（直通）

式次第（平成23年度）

【第1部】戦没者追悼式

1. 開式のこ と ば： 司会者
2. 黙 祷： （一同起立）
3. あ い さ つ： 平和祈念のつどい実行委員長 中村武治
4. 式 辞： 湖南市長 谷畑 英吾
5. 来賓追悼の辞： 衆議院議員、滋賀県議会議員、湖南市議会議長
6. 滋賀県知事メッセージ
および追悼電報の披露
7. 献 花： 実行委員長 湖南市遺族会会長、湖南市長、衆議院議員、
滋賀県議会議員、湖南市議会議長、湖南市社会福祉協議会会長
湖南市傷痍軍人会甲西支部支部代表
湖南市区長会会長、湖南市民生委員児童委員協議会会長
遺族会代表（中学校校区）

【第2部】戦争体験講演会

8. 紹 介： 司会者
9. 次世代戦跡訪問事業「平和学習レポート」発表
10. 戦争体験講演会（十四歳の出陣）
11. 関連事業紹介： 司会者
12. 閉会のこ と ば： 平和祈念のつどい実行委員会副委員長

式 辞（平成23年度）

平成23年度 第7回湖南市平和祈念のつどい 追悼の辞

本日、ご遺族をはじめ関係者のご参列のもと「第7回湖南市平和祈念のつどい」が執り行われるにあたり謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦が終わりを告げてから今日まで66年の歳月が流れました。今年は満州事変から80年、太平洋戦争の開始から70年目にあたります。苦難に満ちた往時をしのぶとき、今なお悲痛の念が胸に迫り来るのを禁じ得ません。あの苛烈を極めた戦いの中で、多くの方々が、祖国の安泰と家族の幸せを願いつつ、遠い異郷の地で尊い命をなくされました。ここに心から御冥福をお祈りします。

そして、現在私たちが享受している平和と繁栄が、祖国のために心ならずも命を落とされた戦没者の方々の犠牲の上に築かれていることを忘れないようにし、戦没者の方々に敬意と感謝の誠を捧げたいと思います。

戦後、日本は平和を国是として、残された人々の懸命の努力によって復興し、今日では、緑豊かな平和を願う美しい国に生まれ変わりました。我が国の復興にご尽力下さったご遺族の方々も今や高齢期を迎えておられることと思いますが、日々の営みが、平和で満たされたものであることを願ってやみません。

しかし、いまだに世界には、一部の核保有国により2万発を超える核爆弾が存在し、核兵器廃絶の実現は程遠い状況にあります。米国大統領は、核兵器を使用したことがある唯一の核保有国として、「米国には行動する道義的責任がある。」と、歴史的な演説を行いました。まだわずかに第一歩を踏み出しただけです。

その一方で、さきの大戦で官僚主義に陥り、組織を守るために情報を操作し、兵卒の人命を軽視した帝国軍軍と同じように、このたびの東日本大震災への対応でも、組織を守るために情報を操作し、人命を軽視したわが国は、過去の教訓を何一つ身につけていないことがわかりました。

この平和で豊かな今日においてこそ、私たちは過去を謙虚に振り返らなければなりません。戦争の悲惨さや、そこに幾多の尊い犠牲があったことを学び、多くの教訓を心に深く刻み、次の世代に正しく語り継ぎ、戦争がいかに悲惨で不幸なことであるかを一人ひとりが真剣に考え、恒久平和の確立に力を尽くしていくことが、今を生きる私たちに課せられた責務です。希望に満ちあふれ、心豊かに暮らせる湖南市の実現のため、全力を尽くしてまいりますことを、ここに改めてお誓い申し上げます。

結びに、戦没者の方々に對し、改めて深く哀悼の意を表し、戦没者御遺族の皆さまの今なお変わることのない深い苦しみ、悲しみに思いを馳せるとともに、ご参列の皆さま方の御平安を心からお祈りいたしまして、追悼のことばといたします。

平成23年8月6日
湖南市長 谷畑 英吾

3 殉国碑



基本情報

所在：石谷町公民館 敷地内
住所：滋賀県東近江市石谷町508
(近江鉄道 八日市駅より 車20分)
連絡先：個人であり記載せず
建立者：石谷町自治会
建立年：昭和54年3月

碑文

【表】

殉国碑

【左側面】

昭和五十四年三月建之

【裏】

(故人名)

経緯

終戦直前の昭和20年7月30日、永源寺町（現在の東近江市石谷町）で3歳と8歳の兄弟がアメリカ軍の戦闘機による機銃掃射により亡くなった。この殉国碑には二人の少年の名前が含まれている。

出典：しがけんバーチャル平和祈念館 ホームページより

京 都 府

1 空爆被災を記録する碑



基本情報

所 在：辰巳公園
住 所：京都府京都市上京区智恵光院下長者町上ル西辰巳町116-3他
(JR・市営地下鉄 二条駅 徒歩20分)
連絡先：磯崎幸典 京都府京都市左京区上高野鷺町3 090-3264-1563
建 立 者：磯崎幸典／空爆被災を記録する碑の建立委員会
建 立 年：平成17年8月

碑 文

空爆被災を記録する碑

昭和二十年（一九四五年）六月二十六日昼前、低い雲の上空に敵機B29の爆音が近づき、突然に轟然たる爆発音とともにすさまじい土煙が上がった。この時の被爆は上長者町通より南は下立売通、東は大宮通、西は浄福寺通に至る方四百メートルの地域で、当時の報告には五十キロ爆弾七発とも五発とも言われた。

報道管制のため、その状況は、多くの市民の知るところとならなかったが、西陣警察署の記録によると、

- 一、死傷者 ・即死 四十三人、 重傷 十三人、
軽傷 五十三人、 計 百九人。
- 二、被害家屋 ・全壊 七十一戸、 半壊 八十四戸、
一部損壊 百三十七戸、 計 二百九十二戸。
- 三、罹災者 ・八百五十人。

であった。ちなみにこの辰巳公園も被災地跡にできたものである。

第二次大戦（大東亜戦争）において京都市は非被災都市と言われてきたが、東山区馬町と太秦の三菱工場および当地域が爆撃をうけたものであり、当地域が最も大きな犠牲者を出したのである。

ここに戦後六十年を期して、この悲惨な空爆の事実を伝えるためこの碑を建立して後世への記録と留める。

平成十七年八月

空爆被災を記録する碑の建立委員会

空襲当時の上京区出水付近
(地図)

2 霊山観音



基本情報

所 在 : 霊山観音
 住 所 : 京都府京都市東山区高台寺下河原町526-2
 (京阪電車 祇園四条駅 徒歩15分、市営バス「東山安井」下車 徒歩5分)
 連絡先 : 京都東山 霊山観音 075-561-2205
 建 立 者 : 石川博資
 建 立 年 : 昭和30年6月8日

※一般戦災死没者を含む

経 緯

四季変わりなく緑の滴たる洛東霊山の麓に平和
 日本の建設と殉国の英霊並びに大戦による犠牲
 者の冥福を祈念するために故石川博資氏によっ
 て建立されました。

慈顔溢る美しいこの観音像は彫刻界の元老、
 故山崎朝雲先生によって原型が作成され、更に
 関係者の献身的な努力によって昭和の代表的芸
 術として後世に偉跡を残す荘厳な尊像が出現し
 たのであります。

出典：京都東山 霊山観音パンフレット

3 春季・秋季慰霊大法要



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 春季・秋季慰霊大法要 ※一般戦災死没者を含む
 会 場 : 京都東山 霊山観音
 (京阪電車 祇園四条駅 徒歩15分、市営バス「東山安井」下車 徒歩5分)
 日 時 : 春季:平成23年5月18日(水) ※例年5月18日開催
 秋季:平成23年11月3日(木) ※例年11月3日開催
 参列者数 : 30~50人(秋季・春季共)
 連絡先 : 京都東山 霊山観音 075-561-2205

式 次 第 (平成23年度)

【春季慰霊法要】

1. 心 経 一 卷
2. 本 尊 回 向
3. 払 子 : 丹羽師
4. 鼓 鉢 : 二四三 一通
5. 開経偈三卷
6. 祭 文 : 石川代表
7. 香 語 : 大導師
8. 観 音 経
9. 回 向
10. 鼓 鉢 : 四二三 一通

【秋季慰霊法要】

1. 鼓 鉢 : 二四三 一通
2. 開経偈三卷
3. 祭 文 : 石川代表
4. 香 語 : 大導師
5. 世 尊 偈
6. 焼 香
7. 回 向
8. 鼓 鉢 : 四二三 一通

4 鎮魂碑



基本情報

所 在 : 共楽公園山頂
 住 所 : 京都府舞鶴市余部上
 (JR東舞鶴駅より 東西循環バス「中舞鶴」下車 徒歩2分)
 連絡先 : 都合により記載せず
 建 立 者 : 旧舞鶴海軍工廠殉職者鎮魂碑建立の会
 建 立 年 : 昭和53年3月

碑 文

【表】
 鎮魂碑
 舞鶴市長 立道團造書

【裏】
 施工者
 (業者名)

説 明 文

碑の由来

明治三十四年舞鶴海軍工廠開廠以来の殉職者の御霊を祀った招魂碑が、共楽公園山頂上に建立されたのは大正八年のことであり爾来春秋の彼岸には盛大な招魂祭が営まれていた。しかしながら、太平洋戦争も熾烈となるに及んで青銅製の碑は供出され、台座のみが往時をしのばせるにいたった。戦争末期、舞鶴軍港もしばしば空襲を受けた。中でも昭和二十年七月二十九日、工廠に投下されたただ一発の爆弾は、約百名の生命を瞬のうちに奪い去った。その中には紅顔の動員学徒男女十九名も含まれていた。憶うだに痛恨の極みである。被爆の真相がようやく明らかになるに及び有志相はかり初の空襲殉職者合同慰霊祭を雲門寺において営んだのは昭和五十二年七月二十九日のこと、その日期せずして鎮魂碑建立の願いが燃え上った。

かくして、かつての招魂碑復元の願いと空襲犠牲者ならびに工廠より内外に派遣され武運つたなく戦没された英霊の碑建立の願いと、これらを打って一丸とした殉職者鎮魂碑を、場所も旧工廠を俯瞰するゆかりの地に礎も固く建立することとした。この旧舞鶴海軍工廠殉職者鎮魂碑にはご遺族や近親者、旧工廠関係者ならびに地元市民の平和への悲願がこめられている。在天の御霊よ、どうか安らかに眠りください。

昭和五十三年三月
 旧舞鶴海軍工廠殉職者
 鎮魂碑建立の会
 西山鶴洞謹書

5 舞鶴空襲犠牲者合同慰霊祭



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 舞鶴空襲犠牲者合同慰霊祭
 会 場 : 共楽公園 鎮魂碑前／雲門寺
 (JR東舞鶴駅より 東西循環バス「中舞鶴」下車 徒歩2分)
 日 時 : 平成23年7月29日(金) ※例年7月29日開催
 参列者数 : 31人
 連絡先 : 雲門寺 0773-62-5313

式 次 第 (平成23年度)

1. 慰 霊 の こ と ば : 日立造船ユニバーサル造船退職者組織 会長
2. 読 経 : 雲門寺住職
3. ご 焼 香 : ご遺族、来賓、参列者
4. 遺 族 代 表 の 挨拶
5. ご 住 職 説 法
6. 閉 式

式 辞 (平成23年度)

慰霊の言葉

66年前の今日を想い謹んで口上申し上げます。
 今日より過ぐる112年前、舞鶴海軍工廠が開廠され、以来の殉職者を祀られたのは大正8年のことでした。
 そして、さきの大戦では青銅製の碑は供出せられていました。1945年の本日、即ち66年前の今日、いまの一時半前に工廠も空襲を受け、勤労者はじめ全国の勤労学徒男女たちが、一瞬にして若い命を奪われてしまいました。
 その爆弾は1万ポンド(4.5トン)の超大型であり、広島・長崎に投下された原爆と同じ形、重量の模擬原爆と後になって判明しました。思うに痛恨の極みであります。
 目の前の鎮魂碑は昭和53年に心ある方々の思いと努力で建立され、この建立に当たり、OB会員の全員が現役時代に組織、組合員であったこと、労働組合としても支援協力を微力ながらしてきたところです。
 こうした先人の尊い犠牲の上に、今日の平和があり、世代や時代が変わっても多くの人々の「いま」があることを銘ずべきです。
 ここに戦後66年に当たり、空襲犠牲者ならびに当時工廠より内外に派遣され戦没された殉職者に対し、改めて深く哀悼の意を表明いたします。
 只今の慰霊式にご参列くださいました全ての皆様方に厚くお礼申し上げます。
 ありがとうございます。

平成23年7月29日
 日立造船・ユニバーサル造船舞鶴 退職者組織 (OB・満亀会)

6 城陽市戦没者追悼式



開催概要（平成23年度）

歳 事 名：城陽市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会 場：文化パーク城陽 ふれあいホール
 （近鉄電車 寺田駅 徒歩10分）
 日 時：平成23年11月9日（水） ※例年11月上旬開催
 参列者数：200人
 連絡先：城陽市 福祉保健部 福祉課 0774-56-4030（直通）

式 次 第（平成23年度）

1. 開会の辞
2. 黙 と う：一同起立
3. 式 辞：城陽市長
4. 追 悼の辞：京都府知事、城陽市議会議長、遺族代表
5. 献 花：城陽市長、来賓、遺族
6. 閉会の辞

式 辞（平成23年度）

菊花薫る本日、多数のご遺族、並びにご来賓の皆様のご参列をいただき、城陽市戦没者追悼式を挙げるにあたり、市民を代表して式辞を申し上げます。

先の大戦において、その尊い命を捧げられました戦没者の御霊に思いを馳せますと、今なお胸に迫り、痛恨の極みでございます。

皆様は、愛する家族、愛するふるさとを守るために戦地におもむき、苛烈を極めた戦いの中で傷つき、倒れ、心ならずも帰らぬ人となりました。ここに謹んで、追悼の誠を捧げるものでございます。

また、ご遺族の皆様におかれましては、癒されることのない深い悲しみの中、言葉にきれぬ苦難を乗り越え、今日までを歩んでこられたところであり、並々ならぬご苦労に改めてご慰労申し上げ、深く敬意を表します。

私たちは、今日の平和と繁栄が、この大きな犠牲の上に築かれたものであることを決して忘れてはなりません。

戦後六十六年が経過する中で、その思いは薄れつつあることも事実であり、今一度戦争の愚かさ、平和の尊さを再認識しなければならないと痛感しております。悲惨な戦争を二度と繰り返さないという決意をここに新たにし、後世までその誓いを永続させることが私共の使命であると強く感じているところでございます。

現在我が国は、戦後最大ともいえる国難に直面しています。未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、今なお、日常生活や経済活動に大きな影響を与えています。復興への道程は遠く厳しいものがありますが、私は、戦後の焼け野原から奇跡的な復興を遂げた、日本国民の力と叡智を信じております。

本市におきましては、恒久平和と安全を願い、平和都市を宣言し、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さを後世に伝えていくとともに、今後とも市民の皆さまが安心して生活できる心豊かな社会を築いていくため、全力を尽くしてまいる所存でございます。

結びにあたりまして、ふるさと城陽の平和と繁栄を守り続けることの誓いを新たにいたしますとともに、戦没者の御霊の安らかならんこと、また、ご遺族の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ式辞といたします。

平成二十三年十一月九日 城陽市長 橋本 昭男

7 平和祈念碑



基本情報

所 在 : J R長岡京駅 東口
 住 所 : 京都府長岡京市神足 2-4-1
 (J R長岡京駅 東口 徒歩1分)
 連絡先 : 長岡京市 企画部 政策推進課 075-951-2121 (代表)
 建 立 者 : 長岡京市
 建 立 年 : 平成元年7月19日

碑 文

【表】

平和祈念碑

【裏】

平成元年七月十九日
 長岡京市長 五十棲辰男書

説 明 文

「平和祈念碑」建立及び「平和の日」制定について

「太平洋戦争末期の昭和二十年七月十九日午前十時半頃、長岡京市神足地区(当時は新神足村)は天王山方面から飛来した米軍艦載機の銃撃を受け一名の尊い犠牲者と数名の負傷者を出しました。

また、同地区にあった日本輸送機株式会社の煙突もその被弾の跡が、大戦の傷跡を残したまま、四十有余年過酷な戦禍の記憶を市民に伝え続けてきました。しかし、老朽による倒壊のおそれが生じたため、昭和六十二年秋に基部のみを残して撤去されました。

この「平和祈念碑」は、大戦の傷跡を残す煙突を五十分の一の大きさに復元し、戦争の悲惨さを次の世代へと伝える証人として建立したものです。

苛酷な戦禍の記憶は、平和を希求する原点であります。戦争という大きな犠牲の上に築かれた平和の尊さを、市民すべてがもう一度見直し、平和を後世に守り伝えなければなりません。

二度とこのような悲劇を繰り返さないことを誓い、平和への願いをこめ、七月十九日を本市の「平和の日」と制定します。

8 平和祈念碑献花式 (平和を考える市民フォーラム'11 第一部)



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 平和祈念碑献花式
 会 場 : 平和祈念碑 前
 (J R長岡京駅 東口 徒歩1分)
 日 時 : 平成23年7月16日(土) ※例年7月19日(市の定めた平和の日)に近い土曜日に開催
 参 列 者 数 : 80人
 連絡先 : 長岡京市 企画部 政策推進課 075-951-2121 (代表)

式 次 第 (平成23年度)

1. 黙 禱
2. 平和祈念碑への献花
3. 碑へ折り鶴を捧げる : 神足保育所 児童
4. 式 辞 : 長岡京市長

式 辞 (平成23年度)

皆さん、おはようございます。
 本日は、早朝より、平和祈念碑への献花式にご参列をいただきまして、誠にありがとうございます。主催者を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

ただ今、献花をさせていただきました平和祈念碑は、皆様ご存知の通り、昭和20年7月19日の神足空襲の際に、銃撃を受けた煙突を5分の1の大きさに復元したものでございます。

神足空襲は、乙訓地域唯一の空襲として、犠牲者1名、負傷者数名を出しました。戦争中とはいえ、当時の長岡京市は静かな農村であったと聞いております。そんな静けさを破って突然現れた米軍艦載機は、16歳の少女の命を奪い、後に堪えがたい悲しみと恐怖を残して去りました。

その日から66年が経過いたしました。この間、長岡京市におきましては、平成元年に、神足空襲のあった7月19日を「平和の日」とし、この「平和祈念碑」を建立するとともに、「平和を考える市民フォーラム」を開催し、次の世代を担う子どもたちに戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える取り組みを行ってまいりました。

過去の悲惨な出来事を二度と繰り返さないという強い想いの原点は、66年前の悲しみに他なりません。

改めて、戦争の犠牲となられた方々、そして神足空襲で犠牲となられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、この街が、いつまでも平和でありますことを、祈念いたしまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

大 阪 府

1 大阪大空襲 京橋駅爆撃被災者慰霊碑 他



基本情報

所 在 : J R 京橋駅 南口
 住 所 : 大阪府大阪市都島区片町2-3
 (J R 京橋駅 南口 徒歩1分)
 連絡先 : 妙見閣寺 06-4254-8115
 建立者 : 慰霊碑…森本栄一郎
 仏 像…城東ライオンズクラブ
 納経塔…有志一同
 建立年 : 慰霊碑…昭和22年8月14日
 仏 像…昭和59年
 納経塔…昭和58年2月

碑 文

【仏像下】
 釈迦牟尼仏尊像

【納経塔下】
 納経塔

【慰霊碑下】
 南無阿彌陀佛

説明文

大阪大空襲 京橋駅爆撃被災者慰霊碑

太平洋戦争終戦前日の昭和二十年八月十四日、大阪は最後の
大空襲を受けた。B29 戦略爆撃機は特に大阪城内の大阪陸軍造
兵廠に対し、集中攻撃を加えたが、その際、流れ弾のトーン爆弾
が四発、京橋駅に落ちた。うち一発が多数の乗客が避難していた
片町線ホームに高架上の城東線(現、環状線)を、突き抜けて落ち
たため、まさに断末魔の叫びが飛び交う生き地獄そのものであ
ったという。判明している被爆犠牲者は二百十名であるが、他に無
縁仏となったみ霊は数え切れなく、五百名とも、六百名とも言わ
れている。

当時、地獄のような惨状を目撃した大東市の森本栄一郎氏が、
あまりの悲惨さに胸を痛め、その霊を弔おうと昭和二十二年
八月十四日、自費で建立された慰霊碑である。

納経塔

戦後、被爆犠牲者を弔う法要が毎年八月慰霊碑の前で鳴野・
妙見閣寺によって行われているが、三十七回忌を機に写経による
供養をと、遺族及び、当時駅での体験者、大阪大空襲の体験を
語る会々員他多数の市民からの基金、協力を得て建立した納経
塔である。

昭和五十八年二月
国鉄京橋駅長

2 京橋駅空襲被災者慰霊祭



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 京橋駅空襲被災者慰霊祭
 会 場 : 大阪大空襲 京橋駅爆撃被災者慰霊碑 前
 (J R 京橋駅 南口 徒歩1分)
 日 時 : 平成23年8月14日(日) ※例年8月14日開催
 参列者数 : 約250人
 連絡先 : 妙見閣寺 06-4254-8115

概 要

この京橋駅であった悲惨な出来事をあなたは知っていますか？
 うだるような暑さでした。気温は既に36度を超過していました。この悲惨な出来事は、昭和20年8月14日、思い起こせば太平
 洋戦争終戦の前日に起きたのです。

その日は連合軍が、大阪市内へ最後となる爆撃を、数十機のB29爆撃機によって実施しました。まず連合軍は大阪城内の陸軍造
 兵廠を爆撃しました。そして午後12時30分ごろ、天王寺行き電車と大阪行き電車が京橋駅に進入したちょうどその時、京橋駅
 の大阪駅ホーム東寄り、城東線から交差している片町線、そして駅西側にあった防空壕付近へ、続けて数個の1トン爆弾が落と
 されたのです。

当時の国鉄京橋駅付近は、一瞬のうちに焦土と化しました。駅舎は吹き飛び、線路はアメのように曲がり、付近の民家や工場も大
 打撃を受けました。瓦礫の山に埋まる死体、幼子を抱きかかえるようにして無言の死を遂げた母子の悲惨な姿、あちらこちらに飛
 び散る手足や肉片、両足を切断されて必死に助けを求める者、身体が土砂の下敷きとなり顔だけ出して絶叫する者、まさに断末魔
 の叫びが飛び交う生き地獄そのものとなりました。

救助活動も思うようにはなりません。多くの人が土砂に埋まっていますが、掘り返すにも道具がありません。地面から出ている
 体の一部を手がかりに、人の手で引き上げることぐらしか出来ませんでした。土砂や壁、そして大きな石の下敷きになった人々
 から、「助けてくれ、助けてくれ」という悲痛な声、「辛抱してくれよ」と声をかけるだけで、為す術もなく多数の方がそのまま息
 絶えました。

焼け付く熱さの中で、大きな石と石の間から、やっとの思いで首をのぞかせ、張り裂けんばかりの声で「水をくれ」と叫ぶ人。な
 んとか水を探してストローで差し上げたその時、「おいしかった、ありがとう」と言うなり、ことごとく死んでしまった人もいました。
 周囲の至るところで、助けてくれと懇願する悲痛なうめき声が止むことはなかったのです。

この惨事によってお亡くなりになられた方々は二百数十名とされていますが、遺体はおろか、遺品すら発見できなかったご家族の
 方々は数知れず、実際の被爆犠牲者は500名とも600名とも言われています。

昭和22年に、この京橋駅に慰霊塔が建立され、そして昭和30年から毎年、爆撃のあった8月14日に、慰霊祭の法要がつとめ
 られてきました。しかし慰霊塔の事は知っていても、犠牲となった方々の無念の思いを心して、積極的に手を合わせる人は稀です。
 このままではいつしか時代の流れに風化して、ついには忘れられてしまう事でしょう。

この京橋駅で何百人もの方々が惨殺されたこの恐ろしい事実を、忘却の彼方におしやる事はどうしても避けなければなりません。
 何故ならば、その事だけがお亡くなりになられた方々の無念の心を鎮める方法だからです。私たちが過去の歴史を語り継ぎ、その
 過ちの大きさを未来平和の為の架け橋とする事だけが、お亡くなりになられた方々への本当の供養なのです。

京橋駅慰霊祭世話人会 (事務局 妙見閣寺)

3 平和よ永遠なれ



基本情報

所 在 : J R 京橋駅 南口ロータリー
住 所 : 大阪府大阪市都島区片町2-3
(J R 京橋駅 南口 徒歩1分)
連 絡 先 : 大阪城東ライオンズクラブ 06-6180-3206
建 立 者 : 大阪城東ライオンズクラブ
建 立 年 : 昭和59年8月1日

碑 文

平和よ永遠なれ

大阪城東ライオンズクラブ之建

CN20周年記念

昭和59年8月1日

経 緯

大阪城東ライオンズクラブでは1984年 CN（設立）20周年の記念事業として、京橋駅南口正面に「平和よ永遠なれ」を設置した。このモニュメントは当時医師として被災者の治療にあたった会員の提言を受け、爆撃で亡くなられた方々の慰霊と平和を祈念するため建てられたものといわれている。

出典：大阪城東ライオンズクラブ 社会奉仕活動資料より

4 祈平和碑



基本情報

所 在 : 内代公園
住 所 : 大阪府大阪市都島区内代町3
(京阪電車 関目駅 徒歩16分)
連 絡 先 : 都合により記載せず
建 立 者 : 内代町世話人一同
建 立 年 : 昭和53年6月

碑 文

【表】

祈平和

【裏】

昭和二十年大東亜戦争も日に、戦局不利となり再三にわたり本土
上空に敵機^{原文ママ}の来襲を見るにいたりしました。内代町も同年六月七日折
からの大空襲に一瞬にして火の海となり降りそぐ焼夷弾、機銃掃
射によって老若男女、幼児に至る六十有余名が悲惨な犠牲となられ
ました。全部この地で茶毘に付され遺骨は雲觀寺、一心寺へと納め
られましたが無縁の遺骨は散りゝに埋没、一時供養塔を建立供養
を営みましたが公園整備で取り除かれ、その後四十九年二月靈の願
いに依り町内世話人相はかり同年六月供養塔を建て年ことの法要を
営み五十二年六月五日三十三回忌も無事回向、供養塔に變り世界の
平和を祈り茲に碑を建立する

昭和五十三年六月吉日

内代町世話人一同
聖護院門跡光徹九十六書

5 護讃地藏尊



基本情報

所 在 : 大長寺
住 所 : 大阪府大阪市都島区中野町2-1-14
(JR大阪城北詰駅 徒歩9分)
連 絡 先 : 都合により記載せず
建 立 者 : 大長寺
建 立 年 : 昭和31年8月

碑 文

【表】

護讃地藏尊

【側面】

願以此功德 平等施一切
同發菩提心 往生安樂國

昭和卅一年八月盆中

【裏】

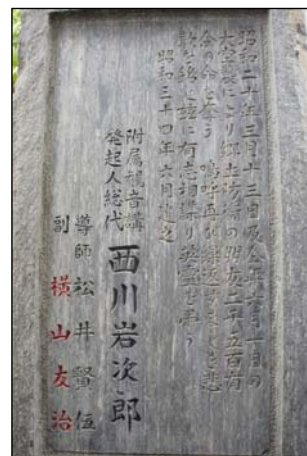
昭和廿年八月一四日空襲
爲 百九十五
戦災死者 靈

説 明 文

「護讃地藏尊」由来

昭和二十年（一九四五年）八月十四日 大阪第三次
空襲の際国鉄京橋駅及近辺に於て多勢の人々が爆死した
遺体を当寺鐘堂の焼跡に運び火葬に付した
遺骨の内無縁の者百九十五体を住職
拾い集めて土中に葬り鎮魂の願いをこめて
回向の上昭和三十一年八月護讃地藏菩薩を
奉祀して無縁諸霊の永代供養のため併せて
永遠の平和を祈念するもの也

6 港区戦災死者有縁無縁精霊碑



基本情報

所 在 : 港区弁天3丁目 町工場街
住 所 : 大阪府大阪市港区弁天3-6-22
(JR・市営地下鉄 弁天町駅、市営地下鉄 朝潮橋駅 徒歩11分)
連絡先 : 港区戦災死者慰霊碑威張り地蔵供養会 個人であり記載せず
建 立 者 : 有志一同
建 立 年 : 昭和34年6月

碑 文

【表】

昭和二十年三月十三日 六月一日

港区戦災死者有縁無縁精霊碑

大阪市長 中井光次 書

【裏】

昭和二十年三月十三日及全年六月一日の
大空襲により郷土防衛の朋友二千五百有
余の命を奪う 嗚呼再び繰返すまじき悲
嘆(旧字)を銘じ茲に有志相謀り英霊を弔う
昭和三十四年六月建之

付属観音講

発起人総代 西川岩次郎

導師 松井賢伍

副 横山友治

説 明 文

五十年忌メモリアルプレート (平成六年六月一日)

港区戦災死者慰霊碑

諸行無常 回忌は既に五十年

土に帰るか 有縁 無縁

弁天三東奉賛会

7 元波除警防団員戦災死者之碑・慰霊之碑



基本情報

所 在 : 港区波除4丁目 町工場街
住 所 : 大阪府大阪市港区波除4-4
(JR・市営地下鉄 弁天町駅、市営地下鉄 朝潮橋駅 徒歩15分)
連 絡 先 : 不明
建 立 者 : 波除連合赤十字奉仕団
建 立 年 : 昭和29年8月

碑 文

【表】

元波除警防団員戦災死者之碑

【裏】

昭和二十九年八月建立

【側面】

世話人
波除校下有志
波除婦人会

【表】

慰霊之碑

【側面】

昭和二十年の大阪空襲にさいし当波除地区において不慮の死をとげられた諸霊に謹んで哀悼の誠を捧げここに慰霊の碑を建立する。

波除連合赤十字奉仕団

8 南無妙法蓮華經 法界供養塔



基本情報

所 在 : 浪速西公園
住 所 : 大阪府大阪市浪速区浪速西 3-10
(南海電鉄 木津川駅 徒歩5分)
連 絡 先 : 都合により記載せず
建 立 者 : 不明
建 立 年 : 昭和24年4月

碑 文

【表】

南無妙法蓮華經 法界供養塔

【裏】

昭和廿四年四月建之

【表】

爲 無縁法界萬霊供養

【側面】

南無阿彌陀佛

説明文

昭和二十年三月十三日夜半大東亜戦争ノ空襲
ニヨリ多數ノ死者ヲ出シ引取者不明又不可能
ノ屍百十五体急場ノ措置トシテコノ処ニ埋葬
約三年後収攬シ火葬ニ附ス。其ノ跡ニ供養塔
及ビ地藏尊ヲ祀リ冥福ヲ祈ル

昭和五十二年三月十三日
三十三回忌供養ス 合掌

9 戦災無縁諸霊菩提



基本情報

所在：玉姫大神 隣
住所：大阪府大阪市浪速区浪速東3-13
(JR芦原橋駅 徒歩4分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：不明
建立年：昭和35年4月

碑文

【表】

爲戦災無縁諸霊菩提

【裏】

昭和卅五年四月

世話人

(個人名)

10 戦災犠牲者慰霊塔



基本情報

所 在 : 崇禅寺
 住 所 : 大阪府大阪市東淀川区東中島5-27-44
 (阪急電鉄 崇禅寺駅 徒歩5分)
 連絡先 : 崇禅寺 06-6322-9309
 建 立 者 : 慰霊塔…大阪市
 墓 碑…戦災死者遺族会
 建 立 年 : 慰霊塔…昭和28年8月15日
 墓 碑…昭和45年11月

碑 文

【慰霊塔 表】

戦災犠牲者慰霊塔
 大阪市長 中井光次 書

【慰霊塔 左側面】

大東亜戦争 昭和二十年六月七日罹災

【慰霊塔 右側面】

昭和二十八年八月十五日建之

大阪市會議員 中川富三郎
 中田亀藏
 床田仁三郎

【改装墓碑 表】

碑文
 太平洋戦争の戦火この地にも波及し、昭和二十年六月七日には当墓地を中心とし、一帯二キロメートルにわたり爆撃、焼夷弾による被害甚大周囲一望灰陣と化し、戦災死者五百数十名此の地に埋葬せらる。昭和二十八年九月有志の切望に依り改装墓碑を建立し、過去帳を当山木堂内陣に安置して各霊位の冥福を祈願す。こゝに終戦二十五周年記念事業として、改修工事を竣工し、永久に残さんとするものである。これにより戦災死者、無縁死者の霊位の追憶思慕を忘れず、冥福安住を共々お祈り下さるよう切望するものであります。

合掌
 昭和四十五年十一月
 戦災死者
 遺族会

11 戦災犠牲者追悼法要



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 戦災犠牲者追悼法要
 会 場 : 崇禅寺
 (阪急電鉄 崇禅寺駅 徒歩5分)
 日 時 : 平成23年6月4日(土) ※例年6月7日前後の休日に開催
 参列者数 : 約15人
 連絡先 : 戦争はあかん・東淀川市民のつどい実行委員会

式次第 (平成23年度)

1. 司会挨拶
2. 代表挨拶と来賓紹介
3. 住職読経と参列者焼香
4. 遺族の方々との懇談

概 要

66年前(1945)の6月7日、15日、26日東淀川は3度空襲を受けました。

米軍機B29による無差別爆撃で、啓発小学校や崇禅寺駅も吹っ飛び、多数の戦災死者や負傷者が出、あたり一面、焼け野原となりました。

8月には、広島、長崎への原爆投下と続き、無条件降伏となりました。

平成23年6月4日 戦争はあかん・東淀川市民のつどい
 実行委員会代表

12 柴島町・浜町戦災犠牲者慰霊塔



基本情報

所在：善教寺
住所：大阪府大阪市東淀川区柴島1-4-38
(阪急電鉄 柴島駅 徒歩4分)
連絡先：善教寺 06-6322-0377
建立者：不明
建立年：昭和33年6月

碑文

【表】

柴島町戦災犠牲者慰霊塔
浜

大阪市長 中井光次 書

【裏】

昭和二十年六月七日及び全年六月二十日、戦災死 昭和三十三年三月十二日 改葬

(故人名)

昭和三十三年六月建立

13 戦死者戦災者慰霊塔



基本情報

所在：正徳寺前 日之出墓地
住所：大阪府大阪市東淀川区西淡路1-8-26
(JR東淀川駅 徒歩7分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：戦死者戦災者慰霊塔建立世話人
建立年：昭和47年8月

碑文

【表】

戦死者戦災者慰霊塔

【右側面】

戦災死者名簿 順不同

(故人名)

【左側面】

戦災死者名簿 順不同

(故人名)

【裏】

昭和四十七年八月吉日建之

建立世話人

(個人名)

14 平和地蔵尊 爆撃犠牲者之精霊 千人塚



基本情報

所 在：城北公園淀川堤防上
 住 所：大阪府大阪市旭区生江3-29-1
 （市営地下鉄 太子橋今市駅 徒歩25分、市営バス「城北公園前」下車 徒歩1分）
 連絡先：千人塚慰霊法要協会 個人であり記載せず
 建 立 者：東浦栄二郎
 建 立 年：昭和55年5月5日

碑 文

【表】

千人つか

【裏】

東浦てる建之

【台座】

平和地蔵尊
 爆撃犠牲者之精霊
 1945年6月7日

【下段】

千人塚由来記
 日本未曾有の大敗戦の昭和二十年六月七日残存せる大阪を壊滅せる大空襲により戦火死者数万人中身元不詳の千数百の遺体を此処に集め疎開家屋の廃材（異体字）を以て茶毘に付す鬼哭啾々たる黒煙天に柱し三日三晩に及ぶ悉く市民の奉仕協力による遺骨は其俣土中にして此処に葬る
 訴うるに声無き無辜の国民の痛恨の空しく土に埋もれ草に掩れて世に忘れ去られんを憂いて巷間の義人東浦栄二郎氏庭石に唯千人つかと刻して此処に置く
 進駐軍治下と近畿地建の管理地なるを以てなり
 爾来三十有星霜香華絶ゆる事なきも世人この塚の謂れを知らず茲に其の由来を刻しこの地下に眠る無辜無縁の霊位の冥福を祈り国家安泰と軍官専横苛政による国民塗炭の痛困と犠牲の再現を永く阻止し世界人類の和平を祈願する日本国民の総意を世に問うものなり
 一九八〇年五月五日 後世正亮記

15 城北公園千人塚慰霊法要



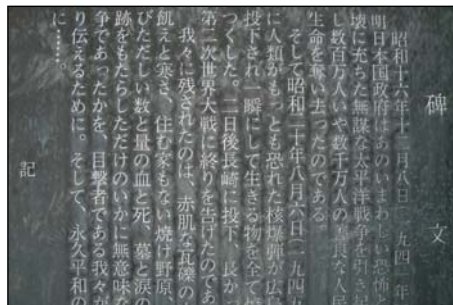
開催概要（平成23年度）

歳 事 名：城北公園千人塚慰霊法要
 会 場：常宣寺（雨天により移動）
 （市営地下鉄 千林大宮駅 徒歩23分、市営バス「城北公園前」下車 徒歩3分）
 日 時：平成23年6月7日（火） ※例年6月7日開催
 参 列 者 数：120人
 連絡先：千人塚慰霊法要協会 個人であり記載せず

式 次 第（平成23年度）

1. 開会
2. 黙祷
3. 御導師入場 常宣寺御住職
4. 御読経
5. 会長挨拶 千人塚慰霊法要協会 会長
6. 旭区長 挨拶
7. 被災者代表挨拶 御焼香
8. 地元選出議員先生方 御紹介 御焼香
9. 地元選出議員御代表 御挨拶
10. 代表焼香（第二部） 地区自治会 諸団体 経済界代表
11. 各種団体代表 御焼香
12. 一般焼香
13. 高橋芸海先生御紹介
14. 紙芝居
15. 合唱「ふるさと」
16. 閉会

16 平和観音



基本情報

所 在：特別養護老人ホーム 白寿荘敷地内（常宣寺 横）
 住 所：大阪府大阪市旭区生江3-27-1
 （市営地下鉄 千林大宮駅 徒歩23分、市営バス「城北公園前」下車 徒歩3分）
 連絡先：都合により記載せず
 建 立 者：有志一同
 建 立 年：昭和52年11月25日

碑 文

【前】

一九四五年六月七日午前十時十五分
 被爆死亡者名 行年
 （故人名）
 （順不同）

【台座】

鎮魂

碑文

昭和十六年十二月八日（一九四一年）未明日本国政府はあのいまわしい恐怖と破壊に充ちた無謀な太平洋戦争を引き起こし数百万人いや数千万人の善良な人民の生命を奪い去ったのである。
 そして昭和二十年八月六日（一九四五年）に人類がもっとも恐れた核爆弾が広島に投下され一瞬にして生きるものを全て焼きつくした。二日後長崎に投下、長かった第二次世界大戦に終りを告げたのである。
 我々に残されたのは、赤肌な瓦礫の山、飢えと寒さ、住む家もない焼け野原、おびただしい数と量の血と死、墓と涙の爪跡をもたらしただけのいかに無意味な戦争であったかを、目撃者である我々が語り伝えるために。そして、永久平和の為に……。

説明文

記

昭和二十年六月七日（一九四五年）午前十時十五分、生江地区の人々の悲劇の日がやってきた。サイパンを飛びたった三百機にのぼるB29アメリカ空軍爆撃機の大阪最後の空襲であった。早朝より敵の来襲を知らせる警報のサイレンが不気味な音を響かせ、初夏の空に鳴りわたる。遠くで爆弾が炸裂するのがドローンと地面を叩くのか、決るのか、鈍く重い音が足もとから伝わってくる。まもなく雲間に数機の爆音が聞こえてくる。何事もなかったように、白い飛行雲を残し、次から次へと生江の上空を北に向かって飛び去っていく。誰れかが大声で「逃げる…」と叫ぶつかの間、キーンと耳を扶る金属音が頭上より背筋を通し伝わった。その瞬間、ものすごい炸裂と地響が起こる。人々は地面に叩きつけられ声もない。家屋はそのまま空中に舞いあげられ、粉々に飛び散り落ちる。真黒い煙が竜巻のように舞い上がり火の粉が散る。なおも空から容赦なく爆弾が不気味な金属音をたてながら黒く白く光りながら雨の如く落ちてくる。ここかしこで火の手があがる。

真っ赤に空を焦がす熱気が突風を呼び、その風の物凄さ、猛り狂う炎の色、白昼を暗黒化にし生江地区を残し、つづみこむように周辺は火の海となった。火の粉は地区内に落ちてくる炎と煙に追いつかれ何千人もの人々がぞくぞくと城北公園めがけて着のみ着のまま泣き叫び、転びながら逃げてくる。それを待ち受けていたかのように戦闘機数機が黒煙の中より現われ、淀川土堤すれすれに飛び交い、避難してくる人々めがけて機銃弾を浴びせ殺したのである。

ある者は土堤や池の端、木の繁み、ある者は園道にうつくり、頭をぶち抜かれ、足をもぎとられ、腹を扶かれ、顔をとばされ、その肉片からしたたり落ちる血で大地を染め、乳呑み子から老若男女が水をもとめて道いづりまわり息をたえなす者、母と子がしっかりと抱き合い身動きもしない。髪をふりみだし「雲が燃えている」と泣き叫ぶ女子、恐しきお経を口ずさむ老人、爆弾の雨が音をたてながら木々をゆさぶり、人々に襲いかかる。炎が黒雲を呼び、雨を呼び、地獄絵図が数時間も続いていった。

遺体は常宣寺に運ばれたが、足の踏み場もないくらい本堂にも庭にも並べられ、収容できずにそのままに数日間放置されていた人々もあった。地区内の家々から帰らぬ我が子、父母の名を呼ぶ悲しみの声が幾日も続いた。遺体は淀川土堤に運ばれ、油をぶっかけられ火葬にされ、その煙が夜も昼も休みなく何日も続いたのである。戦争に駆り出され散っていった我々の親兄弟、家を守った母と子の尊い命が奪われていった……。
 そして三十三年の歳月が流れ、今我々が生きていることを喜び合い、また戦争を知らない若い世代に何んの意味ももたない戦争という悲劇を繰り返さないための手がかりを我々の手で残さなければならぬ。また我々の先輩が部落解放とすべての人民の解放を呼び、多くの血を流し、闘い続けた運動の歴史を受け継ぎ、平和と人権尊重の精神を守り続けるため、真実を教え、真実を語り、真実を伝え、この惨劇の歴史と、ここに刻みこまれた犠牲者とともに永久に銘記するものである。
 一九七七年十一月二十五日

17 延命地藏尊



基本情報

所 在 : 千林大宮商店街
住 所 : 大阪府大阪市旭区大宮 2-17-9
(市営地下鉄 千林大宮駅 徒歩4分)
連 絡 先 : 個人であり記載せず
建 立 者 : 地元町会有志
建 立 年 : 昭和30年頃

碑 文

延命地藏尊

ご真言おんかか・かびさまえいそわか



経 緯

昭和20年6月7日の大阪大空襲（第3回）の際、
この地藏尊近くに1トン爆弾が落とされ、多くの人が犠牲となった。
戦後、その供養として延命地藏尊がまつられたといわれている。



18 被爆者慰霊 平和之碑



基本情報

所 在 : 国道2号線から海老江8丁目へ入った住宅街
住 所 : 大阪府大阪市福島区海老江8-8-30
(阪神電車 淀川駅 徒歩4分)
連 絡 先 : 個人であり記載せず
建 立 者 : 日赤奉仕団 下二の一町団 (地元町会有志)
建 立 年 : 昭和48年5月

碑 文

【表】

被爆者慰霊
平和之碑

【裏】

昭和四十八年五月吉日
日赤奉仕団
下二ノ一町団 建之

【側面】

発起人
(個人名)

建設委員
(個人名)

施工

【前】

被爆 昭和二十年六月二十六日

19 田辺模擬原爆投下跡地



基本情報

所 在：東住吉区田辺1丁目 市営地下鉄 田辺駅より南へ200メートル
 住 所：大阪府大阪市東住吉区田辺1-6-7
 （市営地下鉄 田辺駅 徒歩2分）
 連絡先：個人であり記載せず
 建立者：個人であり記載せず
 建立年：平成13年3月

説明文

模擬原子爆弾投下跡地

一九四五年七月二十六日九時二十六分
 広島・長崎への原爆投下を想定して
 この田辺の地に模擬原爆が投下され、
 村田繁太郎（当時五十五歳）他六名が
 死亡、多数の方が罹災しました。ここ
 に犠牲者の冥福をお祈りし、戦争のな
 い世界の実現と全人類の共存と繁栄を
 願い、碑を建立します。

二〇〇一年三月吉日

建立者
 （個人名）

20 7・26 田辺の模擬原爆追悼式



開催概要（平成23年度）

歳事名：7・26 田辺の模擬原爆追悼式
 会場：模擬原爆投下跡地 前
 （市営地下鉄 田辺駅 徒歩2分）
 日時：平成23年7月26日（火） ※例年7月26日開催
 参列者数：約80人
 連絡先：7・26 田辺の模擬原爆追悼式 実行委員会 個人であり記載せず

式次第（平成23年度）

1. 追悼式開始：司会
2. 模擬原爆解説：追悼式実行委員会
3. 追悼式挨拶：模擬原爆体験者（町会長）
4. 黙祷
5. 模擬原爆体験者挨拶：体験者 1名
6. 広島原爆体験者挨拶：体験者 1名
7. 長崎原爆体験者挨拶：体験者 1名
8. 大阪空襲訴訟原告挨拶：体験者 2名
9. 参加学校生徒挨拶：田辺中学、東住吉中学、長吉西中学、我孫子中学、我孫子南中学、
長南中学（泉佐野）
10. 模擬原爆の本「パンプキン！模擬原爆の夏」著者挨拶：児童文学者
11. 閉会

式辞（平成23年度）

「田辺模擬原爆」追悼のことば

一九四五年七月二十六日、午前九時二十六分。
 広島・長崎への原爆投下を目的として、この田辺の地に、模擬原爆が落とされ、尊い命が奪われ、
 又、多数の方が罹災しました。その十一日後に広島、十四日後に長崎に原子爆弾が投下され、人類史
 上最大の惨劇が引き起こされました。
 東住吉区田辺と広島・長崎に直接つながる「核使用」のためには余りにも用意周到な凄惨で恐ろし
 い行為は、人間として、どうしても認めることが出来ないものです。
 一あれから六十六年一歴史的にも未曾有の大震災一東日本大震災が発生しました。大震災、大津波
 とともに起こった「原発事故」は、人類と原子力の共存などあり得ないことを白日の下に晒しました。

この小さな町「田辺」の体験を次ぎの世代へと語り継ぎ戦争のない世界の実現と、全人類の共存と
 繁栄を願うことが、私達の使命だと考えます。
 ここに犠牲者の冥福をお祈りし、黙祷をささげます。

二〇一一年七月二十六日

21 明倫觀世音菩薩



基本情報

所 在 : 長柄橋南詰
 住 所 : 大阪府大阪市北区天神橋8-13付近
 (市営地下鉄・阪急電鉄 天神橋筋六丁目駅 徒歩8分)
 連絡先 : 正蓮寺 06-6351-2460
 建立者 : 三輪 勝
 建立年 : 昭和32年8月14日

碑 文

明倫觀世音菩薩

昭和二十年六月七日この橋畔において
 散華されたる空襲犠牲者並に
 淀川水難犠牲者の冥福を祈るため
 此處に觀世音菩薩を建立して
 明倫觀世音菩薩と稱へ奉る。
 願くは諸靈安らかに随願往生
 遂げられんことを。

南無大慈大悲(略字)觀世音菩薩
 昭和三十二年八月十四日
 三輪 勝 建立
 魚(略字)森 天心 撰文

旧長江橋弾痕

22 空襲慰靈法要



開催概要(平成23年度)

歳事名 : 空襲慰靈法要
 会場 : 長柄橋南詰 明倫觀世音菩薩 前
 (市営地下鉄・阪急電鉄 天神橋筋六丁目駅 徒歩8分)
 日時 : 平成23年6月7日(火) ※例年6月7日開催
 参列者数 : 約60名
 連絡先 : 正蓮寺 06-6351-2460

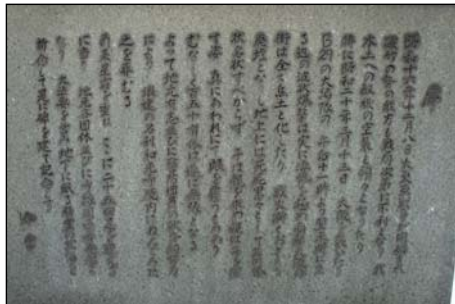
式次第(平成23年度)

なし

式 辞(平成23年度)

なし

23 和光地藏尊



基本情報

所 在：和光寺
住 所：大阪府大阪市西区北堀江3-7-27
(市営地下鉄 西長堀駅 徒歩4分)
連絡先：和光寺 06-6531-1360
建 立 者：和光寺
建 立 年：昭和44年3月13日

碑 文

和光地藏尊

説 明 文

【表】

序

昭和十六年十二月八日 大東亜戦争が開始され
破竹の勢の我方も戦局次第に不利となり 我
本土への敵機の空襲も頻々となりたり
特に昭和二十年三月十三日 大阪を襲いたる
B29の大編隊の 午後十一時より翌未明に至
る迄の波状爆撃は実に凄惨を極め商都大阪の
街は全く焦土と化したり 戦火は漸くおさま
り廃墟となりし地上には死屍累々として其の惨
状名状すべからず 子は親を求め親は子を探
す姿 真にあわれにて目を覆うものあり
むなしく百五十有体は遂に無縁となる
よって地元有志並びに警防団員の献身的努力
により、浪速の名刹和光寺境内にねんごろに
之を葬むる

爾来星霜を重ね こゝに二十五回忌を迎える
に当り 地元各団体並びに寺縁関係者発起と
なり 大法要を営み地下に眠る精霊の冥福を
祈念して是に碑を建て祈念とす

合掌

【裏】

昭和四十四年三月十三日 建之
蓮池山和光寺
第十八番 順譽誓寛 代

24 西六平和塔



基本情報

所 在 : 新町橋跡 緑地内
住 所 : 大阪府大阪市西区新町1
(市営地下鉄 西大橋駅 徒歩3分)
連 絡 先 : 西六福社会館 06-6534-0874
建 立 者 : 旧西六町会連合会 西六連合会
建 立 年 : 昭和32年3月13日

碑 文

西六平和塔
大阪市長 中井光次 書

説 明 文

【表】

満州事変日華事変
大東亜戦争を通し
当地区からも多く
の人々^{原文ママ}が出征し、
国難に殉じました
また、昭和二十年三
月十三日夜の大空
襲では全町が焦土
と化いたしました
も三百余名が焼死
しました
ここに有志相図つ
て一基の塔を建立
し
英霊幽魂の冥福と
世界永遠の平和を
祈念します

昭和卅二年三月十三日

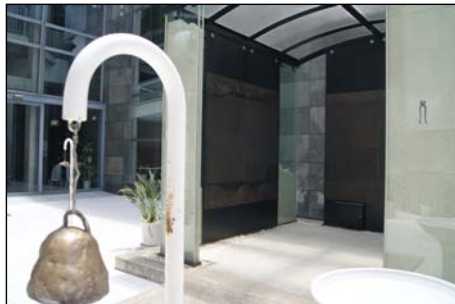
旧西六町会連合会
西六連合会

【裏】

この西六平和塔
は旧西六町会連合
会所有の土地を処
分し、昭和三十二年
三月十三日光禪寺
境内に建立したも
のです

建立者代表
(個人名)

25 大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場「刻の庭」



基本情報

所 在 : ピースおおさか (大阪国際平和センター)
 住 所 : 大阪府大阪市中央区大阪城 2-1
 (J R 森ノ宮駅 徒歩 7 分、市営地下鉄 森ノ宮駅 徒歩 4 分)
 連 絡 先 : 06-6947-7208
 建 立 者 : ピースおおさか (大阪国際平和センター)
 建 立 年 : 平成 17 年

説明文

「大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場」(「◎刻の庭」)について

第二次世界大戦末期の大阪空襲により、大阪府では死者 1 万 2 6 2 0 人、行方不明者 2 1 7 3 人の被害があったといわれている。[1 9 4 5 (昭和 2 0) 年 1 0 月大阪府警察調査] 戦後、遺族を中心とした市民団体や一部の自治体では、大阪空襲死没者の氏名等の収集が行われたが、府内全域をとりまとめた名簿はなかった。戦後 5 4 年にあたる 1 9 9 9 (平成 1 1) 年には、「大阪戦災障害者・遺族の会」が調査した約 6 0 0 0 名分の名簿が (財) 大阪国際平和センター (ピースおおさか) に寄託された。

当センターでは、この名簿などを基に、大阪府の委託を受け 2 0 0 2 (平成 1 4) 年 1 0 月から、大阪空襲による死没者の本格的な調査を全国的に行った。

現在 9 0 3 3 名の氏名等が判明し、「大阪空襲死没者名簿」を展示している。

これを機会に、この名簿を収納するとともに、大阪空襲で亡くなられた方々を追悼し恒久平和を祈念する「場」の設置を望む声が多方面から寄せられた。

このため、当センターは、「大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場」の整備

事業に執りかかることを決定し、多くの人々の参画を求めるため、広く募金を呼びかけた。

この結果、府民・市民の皆様をはじめ遺族や各種団体から、多くの貴重な浄財が寄せられ、また、各方面の方々のご協力・ご支援により、戦後 6 0 年にあたる 2 0 0 5 (平成 1 7) 年 8 月に完成をみた。

この「大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場」には、大阪空襲で亡くなられた方々の「名簿」を収納し、その氏名を刻印した銘板がドーム (高さ 3. 3 m × 幅 3. 1 m × 奥行 3. 1 m) の中心に置かれている。この「モニュメント」は、過去の悲惨な戦争から、現在、未来へ向けた新たな恒久平和取り組みの一つの線上のものとして表現するため、古代から伝わる砂という自然な素材をそのまま活かしながら、ガラスと鉄という近代の素材をそれに融合させ制作された。銘板に刻まれたウミガメは「平和のメッセンジャー」を意味し、母子像は「生命の尊さ」を意味する。正面の砂のブロックには戦火によって溶け、変形した鉄製の工具が埋めこまれている。「かつて起こったこと」を時間を超え証明している。またこのスペースには「メインオブジェ」と 8 つの「音の出るオブジェ」が配置されている。

「メインオブジェ」は、平和を象徴する鳥 (当センターのキャラクター) であり、この場全体を静かに見守っている。「音の出るオブジェ」は、8 回あった大空襲と同じ数を配置しており、吊るされた個々形の異なる鐘を訪れた人々が鳴らし、様々な音色を奏で、その場に参加し、そこにかかわることによって、平和への感覚を目覚めさせるために配置された。また休息の場として、焼物のテーブルや椅子、水瓶、植物などを配置しているが、これらもひとつひとつが異なった形状、色をしており「生命の多様性」さらにはその「共存性」を表している。これらは、当センターを訪れた人々の安らぎの場となるとともに、大阪空襲による多数の犠牲者への哀悼の誠を捧げ、恒久平和への新たな取り組みが広く発信される場となるように、特に次世代を担う子どもたちへ、戦争の悲惨さと平和の尊さについて語り継ぐための強いメッセージとなるよう、願いを込めてトータルデザインされている。

全体の企画・デザインは当センターのシンボルマーク等を制作された栗津潔氏 (環境デザイナー) によるもので、「植木鉢、オブジェ」等については、(財) 黒田緑化事業団から寄贈されたものである。

なお、この「場」が子どもからお年寄りまですべての人々に愛され、いつまでも親しまれるよう「愛称」を広く募集し、「◎刻の庭」と名づけられた。

2 0 1 1 (平成 2 3) 年 8 月 (財) 大阪国際平和センター (ピースおおさか)

26 1945年の母子像



基本情報

所 在 : ピースおおさか (大阪国際平和センター)
住 所 : 大阪府大阪市中央区大阪城2-1
(JR森ノ宮駅 徒歩7分、市営地下鉄 森ノ宮駅 徒歩4分)
連絡先 : 06-6947-7208
建 立 者 : ピースおおさか (大阪国際平和センター)
建 立 年 : 平成3年

碑 文

1945年の母子像

THE STATUE OF MOTHER AND INFANT

IN 1945

BY KIYOSHI AWAZU 1991

作=栗津 潔

経 緯

この母子像は、戦争で犠牲になった人々を追悼するとともに、
戦禍の中を逃げまどう母と子のイメージを基本に
作製された大阪大空襲犠牲者の追悼モニュメントである。

出典：ピースおおさか ホームページより

27 水呑地藏尊



基本情報

所 在 : 内久宝寺団地付近
住 所 : 大阪府大阪市中央区内久宝寺町4-1-15
(市営地下鉄 堺筋本町駅 徒歩6分)
連絡先 : 水呑地藏講大阪第一番組 個人であり記載せず
建 立 者 : 地元町会有志
建 立 年 : 昭和30年代後半

碑 文

水呑地藏尊

経 緯

昭和20年3月14日の午前2時か3時頃、米軍の空襲により、この一角は火の海と化した。(第1回大阪大空襲)
内久宝寺四丁目の元鴻池邸跡の広大な空地に東区(現在の中央区)で一番大きなモデル防空壕があり、近隣町会の人々を含めて38人が避難していたが、全員焼死という悲惨な事態となった。

戦前は少し南にあった水呑地藏尊をこの時の焼死者を初め、空襲で亡くなった人々を慰霊するために、防空壕跡の地に移し、永久平和を祈願して、毎年供養が続けている。

出典：水呑地藏講大阪第一番組 平成19年8月23日発行
「お地藏さんに見守られて」より

28 戦災無縁諸霊菩提



基本情報

所 在 : 国道43号線 中開交差点付近
住 所 : 大阪府大阪市西成区南開1-6
(JR今宮駅 徒歩8分)
連 絡 先 : 不明
建 立 者 : 後援町会連合会世話人、連町会有志一同、世話役一同
建 立 年 : 昭和39年(再建)

碑 文

【表】

為戦災無縁諸霊菩提

【側面】

昭和三十九年 再建

【裏】

発起人

(個人名)

後援町会連合会世話人

(個人名)

連町会有志一同

【柱】

世話役一同

29 慰霊塔



基本情報

所 在 : 文の里公園
住 所 : 大阪府大阪市阿倍野区文の里3-6
(市営地下鉄 文の里駅 徒歩1分)
連 絡 先 : 不明
建 立 者 : 文の里遺族厚生会
建 立 年 : 昭和29年5月10日

碑 文

【表】

慰霊塔
大阪市長 中井光次

【裏】

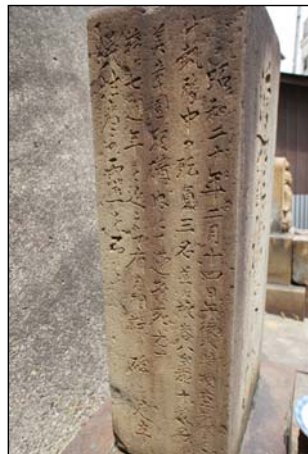
昭和廿九年五月拾日
文の里遺族厚生会建之

世話人
(個人名)

説 明 文

この慰霊塔は文の里地区の英霊を慰めその遺芳を後の世に伝え崇敬感謝平和の祈りの象徴として大阪市最初の被爆地をえらび文の里遺族厚生会及び有志によって建立されたものです。

30 遭難供養之碑



基本情報

所在： J R美章園駅 階段下
住所： 大阪府大阪市阿倍野区美章園2
（J R美章園駅 すぐ）
連絡先： 不明
建立者： 国鉄美章園駅国鉄職員一同
建立年： 昭和26年8月24日

碑文

【表】

遭難供養之碑

【右側面】

昭和二六年八月二十四日建之
国鉄美章園駅国鉄職員一同

【左側面】

昭和二十年二月十四日午後八時頃空襲を受
け執務中の職員三名並に旅客公衆十数名が
美章園駅構内にて遭難死亡す
原文ママ
茲に七 週 年を迎えて有志相謀り碑を建立し
犠牲者の霊を弔ふ

31 被爆者鎮魂碑



基本情報

所 在 : 左門橋南詰の東側
住 所 : 大阪府大阪市西淀川区佃1-24-11
(阪神電車 千船駅 徒歩7分)
連 絡 先 : 不明
建 立 者 : 鎮魂碑建立発起人会
建 立 年 : 昭和60年8月24日(再建)

碑 文

【表】

被爆者鎮魂の碑

【左側面】

大東亜戦争時佃地方空襲による犠牲者
五十三名の御霊を祀る鎮魂の碑

【裏】

昭和六十年八月二十四日再建

【右側面】

鎮魂碑建立発起人会

説明文

被爆者鎮魂碑

大東亜戦争の末期 昭和二十年六月二十六日 アメリカ空軍B29の来襲により 此所にあった地下壕が直撃弾を受け 避難中の付近住民約五十三名の尊い命が奪われました。お近くの篤志家により無縁佛が建立され 昭和三十三年には一般住民の方々のご好意により記念碑と地蔵尊が合祀され縁故者と共にそのご冥福をお祈りし続けて参りました。世界平和の礎となられた尊い犠牲者に対して私たちは永遠のお祈りを捧げ この様な悲劇が繰り返えられることの無いよう改めて心に深く誓い合わなければならないものと確信致します。此の度この悲惨な事実を後世に伝え 戦争の絶滅を願って 鎮魂碑が再建されることになりました。再建するに当り数多くの人々のご浄財が集められこの様に立派に建立されましたことを この銘記致します。合掌

昭和六十年八月二十四日
記念碑建立
発起人一同

32 柏里子安地藏尊



基本情報

所 在 : 市営柏里住宅4 裏
住 所 : 大阪府大阪市西淀川区柏里3-17-4
(JR塚本駅 徒歩6分)
連絡先 : 不明
建 立 者 : 柏五・柏六世話人一同
建 立 年 : 昭和32年8月

碑 文

子安延命地藏尊

【縁起】

(以下、一部判読不明)

大東亜戦の空襲の際柏里地区戦災□□□・・・
平和祈念の爲め昭和二十九年□□□・・・
尊を奉安せしが戦災死者□□□・・・
立す
昭和三十二年八月□□□・・・
柏里子安延命地藏尊堂

總代
世話人
(個人名)
工匠

説 明 文

柏里子安延命地藏尊縁起由来

ねがわくば柏の里の幼な子の
身をもこゝろもまもるみほとけ

この御本尊を此の地に安置したるは去る昭和二十年六月十五日柏里校下は大空襲の盲爆を受け多数の戦死者を出しこれらの無名のみ霊をこの地にて荼毘にふし当所出身有志の浄財ご喜捨にて此処に堂宇を建立せしものなり
本尊は享保三年の作と伝えられ元南区御堂筋に奉仕ありたるを道路拡張のため大阪市に於いて阿倍野斎場に移祀せられたるを戦没者の供養と町内の安全また老幼者の延命息災を祈念するため故石田氏ご努力により此の地に安祀 由緒ある地藏尊にして方位を北に向け柏里子安地藏尊別名北向地藏尊と称する霊験あらたかな地藏尊なり
昭和四十六年八月二十五回忌に当り建之
柏五・柏六世話人一同

33 堺大空襲を偲び平和を祈念する碑



基本情報

所 在 : 内川河川敷、栄橋・竜神橋間
 住 所 : 大阪府堺市甲斐町西3
 (南海電鉄 堺駅 徒歩5分)
 連絡先 : 堺市 健康福祉局 生活福祉部 健康福祉総務課 072-228-7212 (直通)
 建立者 : 堺市、堺市戦災死没者遺族会
 建立年 : 平成21年7月9日

碑 文

【表】

堺大空襲を偲び
 平和を祈念する碑

【表下】

碑文

先の太平洋戦争において昭和二十年の五次にわたる空襲により千八百七十余柱の堺市民の尊い生命が失われました。なかでも、昭和二十年七月九日夜半から十日にかけての空襲により、一夜にして堺市旧市街地が焼失し、多くの市民が戦災の犠牲になりました。ここに戦争の悲惨さを後世に伝え平和を祈るために「堺大空襲を偲び平和を祈念する碑」を建立します。

平成二十一年七月九日
 堺市
 堺市戦災死没者遺族会

34 堺市戦災死没者慰霊祭



開催概要 (平成23年度)

歳事名 : 堺市戦災死没者慰霊祭
 会場 : 内川河川敷 堺大空襲を偲び平和を祈念する碑 前
 (南海電鉄 堺駅 徒歩5分)
 日時 : 平成23年7月9日(土) ※例年7月9日開催
 参加者数 : 150人
 連絡先 : 堺市 健康福祉局 生活福祉部 健康福祉総務課 072-228-7212 (直通)

式次第 (平成23年度)

- 開 式 : 司会者
- 法 要 : 一光寺 住職
- 追悼のことば : 堺市戦災死没者遺族会 会長
- 追悼のことば : 御協賛 市校区顧問
- 千羽鶴奉納 : 作文朗読 堺市立市小学校 児童代表
- 代表焼香 : 遺族会会長
市校区顧問
- 御礼のことば : 遺族会副会長
- 法 要 : 一光寺 住職
- 来賓焼香・閉式

式 辞 (平成23年度)

追悼のことば

本日は、平成二十三年度 堺市戦災死没者慰霊祭にあたり謹んで追悼のことばを申し上げます。先の太平洋戦争の終戦より六十六年が過ぎ去りました。思い起こしますと、昭和二十年七月九日、夜半よりのアメリカ空軍・B29の大編隊が紀伊水道を北上し、堺市旧市街地一帯に油脂焼夷弾、黄燐焼夷弾を雨・霰のごとく投下し、殆どが木造家屋でありました堺市が、その物量爆撃により、甚大な被害を受け、一夜にして焼き尽くされたのであります。その爆撃により、この地におきまして大空襲の被害を受け亡くなられた御霊は千八百七十余柱、言葉で表わすことも出来ないような凄惨な状況で御座いました。私達は衷心より御霊の御冥福をお祈り申し上げる次第で御座います。尚、本年も、お参りくださいました御来賓の方々をはじめ、毎年御協力を賜ります地元の皆様、ならびに御参詣を下さいました皆様方に篤くお礼申し上げます。私どもは戦争被害者の悲しみを風化させてはならないと考えているところで御座います。これから先も戦争のない恒久的な世界の平和をお祈り申し上げまして、追悼のことばとさせていただきます。

平成二十三年七月九日
 堺市戦災死没者遺族会

35 堺市戦災殉難之地



基本情報

所 在： 南海電鉄 堺駅 南側
住 所： 大阪府堺市堺区戎島町3-22
（南海電鉄 堺駅 徒歩1分）
連絡先： 都合により記載せず
建 立 者： 堺ライオンズクラブ
建 立 年： 昭和60年9月

碑文

【表】

堺市戦災殉難之地

念ずれば
花ひらく

苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうしてそのたび
わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった

眞民

【裏】

堺市戦災殉難之地

堺市は昭和二十年七月十日未明 空襲により旧市ごとごとく全焼するとくに旧龍神駅附近及び土居川内での殉難者多数にのぼる
被災四十周年に当り
人類の幸福と世界の平和を祈念し坂村眞民氏の「念ずれば花ひらく」の詩文を掲げ名もなき花の多くひらかんことを願う

昭和六十年九月吉辰
堺ライオンズクラブ

36 堺空襲犠牲者殉難地追悼会



開催概要（平成23年度）

歳 事 名	堺空襲犠牲者殉難地追悼会
会 場	堺市戦災殉難之地 前 (南海電鉄 堺駅 徒歩1分)
日 時	平成23年7月10日(日) ※例年7月10日開催
参 参 者 数	103人
連 絡 先	自由と自治・進歩と革新をめざす堺市民の会

式 次 第 (平成23年度)

1. 追 悼 の 歌 : うたごえサークル「ぐみの木」有志
2. 開 会
3. 黙 と う
4. 主 催 者 挨 拶 : 自由と自治・進歩と革新をめざす堺市民の会（堺市民懇）代表
5. 堺 空 襲 体 験 談
6. 追 悼 の こ と ば
7. 平 和 へ の よ び かけ
8. 献 灯 : 参加者個人
9. 閉 会 : 堺市民懇 代表世話人

式 辞（平成23年度）

なし

37 戦災無縁地蔵尊



基本情報

所 在：大阪府中小企業信用保証協会 南側
住 所：大阪府堺市堺区住吉橋1-3-15
(南海電鉄 堺駅 徒歩9分)
連 絡 先：堺戦災無縁地蔵尊保存会
建 立 者：有志一同
建 立 年：昭和29年11月

碑 文

【表】

戦災無縁地蔵

【裏】

笠岡市
豊前重一浄信
謹刻

【側面】

于貶昭和廿年七月九日敵機の来襲により瞬時に阿鼻叫喚の巷を現出当所に命終の無慮八百を算すとこゝに遠近親疎の喜捨せる浄財もて謹んで地蔵尊一軀を敬造す願ふところは如上の諸霊の菩提に資しもって久遠の平和を銘じ并せて有縁無縁三界万霊十方至聖同く覚路に登らんことを云爾（略字）

昭和二十九年十一月吉日
建立者 有志一同

説 明 文

堺戦災遺跡 戦争の傷跡
(戦災無縁地蔵尊)

1945年（昭和20年）、日本は戦争の敗色が濃くなり、全国の主要都市の空襲はいよいよ激しくなりました。堺市も、3月13日、6月15日、26日、7月10日、8月10日の5次のわたって空襲をうけて座敷となりました。なかでも7月10日未明の第4次空襲は、当時の市街地の大半が焼失し、3千人にのぼる人々が死傷するという大きな被害があったため、堺空襲と呼ばれています。
その時の被災地のなかでも、このあたり一帯は最も凄惨を極めた地域で、焼夷弾による炎と軍需工場から吹き上がる黒煙に包まれ、逃げ場を失った多くの人たちが悲惨な最期を遂げました。

戦後まもなく、地元の有志の方々により被災者の供養がなされ、さらに1945（昭和29）年には、保存会により地蔵が建立されました。
堺市では、二度と戦争を繰り返さないことを祈念して、ここに銘板を設置するものです。

1998（平成10）年 堺市

38 堺戦災無縁地蔵尊慰霊祭



開催概要（平成23年度）

歳 事 名：堺戦災無縁地蔵尊慰霊祭
会 場：戦災無縁地蔵尊
(南海電鉄 堺駅 徒歩9分)
日 時：平成23年7月9日（土） ※例年7月9日開催
参 列 者 数：約60人
連 絡 先：堺戦災無縁地蔵尊保存会

式 次 第（平成23年度）

1. 導 師 入 場
2. 慰 霊 の 辞：堺戦災無縁地蔵尊保存会 会長
3. 祭 主 焼 香
4. 来 賓 焼 香
5. 一 般 焼 香

式 辞（平成23年度）

慰霊の辞

本日、第六十六回、堺戦災無縁地蔵尊慰霊祭に当り、不幸にも戦災に遇われた犠牲の英霊八百余柱に慰霊法要を執り行う事が出来た事は、皆様方のご尽力と厚く感謝申し上げます。

保存会を代表と致しまして、ご霊前に敬弔の至誠を捧げたく存じ上げます。

思えば、昭和二十年七月九日夜半より突如、堺方に来襲した米機による空襲は、余りにも無残この上なく一瞬のうちに市民を火えんに包み、当時、竜神駅に停車していた三両の急行列車の乗客を含めた住民八百余名の尊い生命を奪い去ったのであります。

猛火は竜巻をおこし、あたり一面は火の海と化し灼熱地獄の中逃げ場を失い無残にも命を絶たれたのであります。この上ない悲惨な出来事でございました。ほとんど全滅状態で生き残った事態が不思議な位残さぬ被害でございました。

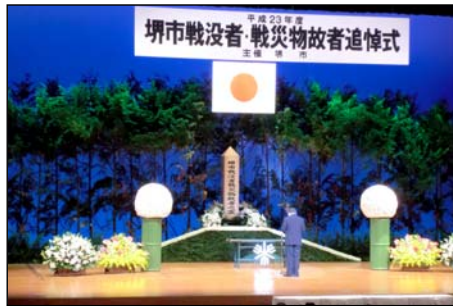
一夜明け、有様はあたり一面焼土化し、焼死体が散乱し、まるで地獄絵図の様でございました。見るに見兼ねた、有縁無縁地元の生存者、有志各位が相談られて、腐乱する遺体を火葬し、その後、八百余名の御遺骨の上に堺戦災無縁地蔵尊を建立し、保存会を結成いたしました。それ以来六十六年間供養なされてきた次第でございます。本日皆様の有難いご協賛をお受けし諸霊も定めし地の下で慰労な法要にあわれ安らかにご鎮魂なされていることでございます。

市民を巻き込んだ戦争と云う悲惨な事実がありました事を、風化されることなく後世に語り継ぐ責務と自負致して居ります。現在、平和な市民生活は尊い命の犠牲に成るものでございます。出来事事なら、この場所を戦争傷跡として永久保存出来ます事、衷心より願う所存でございます。

これを以ちまして、慰霊の辞とさせていただきます。

合掌
平成二十三年七月九日
堺戦災無縁地蔵尊保存会 会長

39 堺市戦没者・戦災物故者追悼式



※写真提供 堺市

開催概要（平成23年度）

歳事名：堺市戦没者・戦災物故者追悼式

会場：堺市民会館 大ホール

（南海電鉄 堺東駅 徒歩10分）

日時：平成23年10月20日（木） ※例年10月中旬頃開催

参列者数：800人

連絡先：堺市 健康福祉局 生活福祉部 健康福祉総務課 072-228-7212（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式の辞
2. 国歌斉唱
3. 黙とう
4. 追悼の辞：堺市長 竹山修身、堺市遺族会代表、堺市戦災死没者遺族会代表、堺市議会議長
5. 献花：堺市長、遺族代表、来賓
6. 閉会の辞

式 辞（平成23年度）

追悼の辞

本日ここに、多数のご遺族、ご来賓の皆様をお迎えして、平成23年度堺市戦没者・戦災物故者追悼式を謹んで挙行了いたします。

苛烈を極めた先の大戦では、多くの方が遠く離れた異郷の地で、祖国の平和と発展を想い、そして何よりも残された家族を案じながらも、尊い犠牲となられました。また、本市においても、数次にわたる空襲により、多くの市民の皆様が犠牲となられたところです。戦禍に倒れた方々のご無念、ご遺族の悲嘆と、これまで乗り越えてこられた苦難を、ここにあらためて深く胸に刻み、心より哀悼の意を捧げます。

戦後66年の歳月が過ぎましたが、今日の堺市が、幾多の災難を乗り越え、平和と発展の道を歩むことができたのも、市民の皆様のためのご努力の賜であると同時に、先の大戦で命を落とされた方々の尊い犠牲の上に築かれたものであることを、私たちは決して忘れてはならないと思います。

本年3月の東日本大震災、そしてそれに伴う原子力発電所の事故を、私たちは目の当たりにいたしました。街が完全に崩壊し、今も多くのご遺体の確認すらままならない有様は、大空襲、あるいは、原爆投下されたヒロシマ、ナガサキを想起させるものでした。

戦争と自然災害、その原因は大きく異なりますが、失った命を忘れないこと、犠牲から学び、活かすことが、残された者の責務であることには変わりはありません。私たちは、これからも、命の尊さ、そして戦争の悲惨さを次の世代に語り継ぎ、恒久平和の実現に向けて全力を尽くすことを、改めてお誓い申し上げます。

結びにあたり、戦没者並びに戦災物故者各位の御霊の安らかならんことを、そしてご遺族の皆様のご今後のご平安とご健勝をお祈り申し上げ、追悼の言葉といたします。

平成23年10月20日

堺市長 竹山 修身

40 熊野学区 戦死・戦災死者追悼之碑



基本情報

所 在 : 超善寺
住 所 : 大阪府堺市堺区熊野町東5-1-18
(南海電鉄 堺駅 徒歩5分)
連 絡 先 : 超善寺 072-232-2671
建 立 者 : 有志一同
建 立 年 : 昭和32年5月

碑 文

【表】

熊野学区 戦死戦災者追悼之碑

堺市長 河盛安之介 謹書

【裏】

発起人

戦災十三周年忌法要記念建之

(個人名)

昭和三十二年五月

41 堺市平和塔



基本情報

所 在 : 大仙公園
住 所 : 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2-204
(JR百舌鳥駅 徒歩5分)
連絡先 : 堺市 健康福祉局 生活福祉部 健康福祉総務課 072-228-7212 (直通)
建 立 者 : 堺市
建 立 年 : 昭和46年6月

※一般戦災死没者を含む

碑 文

なし

経 緯

世界恒久の平和は、人類共通の願いです。

私たちは太平洋戦争の尊い犠牲において、平和希求を全国的な合意といたしました。

そうして、戦後25年有余を経た現在焦土の中から立ちあがった日本の国は、産業経済の高度成長もめざましく躍進をつづけております。

わたくしたちの堺のまちは、このたくましい息吹の中で、今や阪神経済圏の一翼をになって国際的に雄飛する百万都市建設の理想にむかって、日進月歩の発展をつづけています。

それにつけても、私どもは今日の平和と繁栄のかげに多くの戦争犠牲者のあったことを忘れ去ることができません。

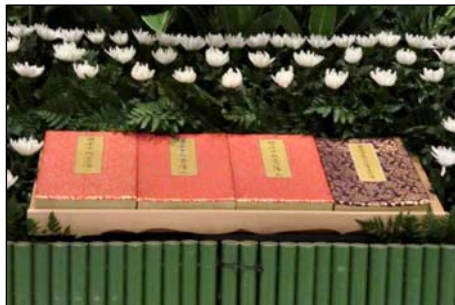
(中略)

今回堺市が、多年の市民の渴望にこたえて、大仙公園内の一角に聖地をえらんで、世界の永遠の平和を念望し、郷土の戦争犠牲者の霊名を念誦して、堺市平和塔の建設に着手せられました。即ち、地上60.5mに及ぶ市章をかたどった三角柱の立塔と直径7mの円形の礼拝堂を主体として、周囲の環境と調和を保ち近代的な感覚を鉄筋コンクリート造りにもりあげて今年6月にその竣工を期せられています。

(以下略)

出典：堺市平和塔建設募金趣意書（昭和46年4月）
※一部抜粋

42 豊中市戦没者並びに空爆犠牲者追悼式



※写真提供 豊中市

開催概要（平成23年度）

歳事名：豊中市戦没者並びに空爆犠牲者追悼式

会場：とよなか男女共同参画推進センター すてっぷホール
(阪急電鉄 豊中駅 徒歩1分)

日時：平成23年10月1日(土) ※例年10月1日開催予定

参列者数：148人

連絡先：豊中市 健康福祉部 地域福祉室 06-6858-2525 (代表)

式次第（平成23年度）

1. 開式の辞
2. 国歌斉唱
3. 黙とう
4. 市長式辞
5. 追悼の辞
6. 来賓紹介
7. 献花
8. 閉式の辞

式辞（平成23年度）

本日、ここに多くの遺族、並びにご来賓の皆様のご参列を賜り、豊中市戦没者並びに空爆犠牲者追悼式を挙行するにあたり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

まず初めに、三月の東日本大震災に続き、九月には日本列島全体が台風による災害に見舞われました。災害で犠牲となられた方々に対してご冥福をお祈りするとともに、今なお不自由な生活を余儀なくされている被災者の皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。

さて、本年は戦後六十六年目の年であり、本式典も六十回目を迎えることとなりました。

先の大戦では、多くの尊い生命が失われましたが、亡くなられたひとり一人のお気持ちを思う時、言い尽くせない深い悲しみが込み上げてまいります。

ご遺族の皆様におかれましては、かけがえのない最愛の方々を失われ、幾多の苦難を乗り越え、今日を迎えられた長年のご労苦に対しまして、深く敬意を表する次第でございます。

今日、わが国が平和と豊かさを享受することができておりますのも、多くの尊い犠牲と、ご遺族をはじめとする皆様の平和を求める思いの上に成り立っていることを、決して忘れてはなりません。

世界では、今なお紛争やテロ行為が続いている地域もございますが、戦争の悲劇を知らずに育った世代が国民の大半をしめるわが国では、戦没者のご遺志を受け継ぎ、今後とも戦争の悲惨さと平和の尊さを、次世代の子どもたちへと語り継いでいくことは重要な課題です。

本市は昭和五十八年に「非核平和都市宣言」を行い、さらに昨年三月には非核平和に取り組む組織である「平和市長会議」に加盟いたしました。その精神をふまえ、核兵器の廃絶や戦争の悲惨さを広く訴えとともに非核平和意識を高めるために、パネル展や平和標語の募集を行うなど、市民の皆様とともに、様々な啓発活動を展開しているところでございます。

今後とも、恒久平和の実現に向け、全力を尽くして参りますので、皆様にも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、御霊の安らかなるご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご健勝・ご多幸を心から祈念致します。

平成二十三年 十月 一日 豊中市長 浅利 敬一郎

43 大阪市戦災犠牲者慰霊塔



基本情報

所 在 : 大阪市設服部霊園
 住 所 : 大阪府豊中市広田町1-1
 (北大阪急行電鉄 緑地公園駅 徒歩25分、阪急電鉄 曾根駅 徒歩30分
 ※両駅より無料送迎バスあり)
 連絡先 : 大阪市 環境局 斎場霊園担当 06-6630-3135 (直通)
 建 立 者 : 大阪市
 建 立 年 : 昭和33年9月

碑 文

慰霊塔

説明文

慰霊塔記

太平洋戦争の末期において大阪市
 内は大小二十数回にわたり焼い弾爆
 弾等による空襲をうけました

戦災地域は主に都心から臨港地帯
 にかけて市域の約三分の一に達し被
 災者総数百十万人うち死者は一万
 人余に上りました

昭和二十三年本市は当時校庭や公
 園の片すみに仮埋葬された遺体の改
 葬を行い無縁の遺骨二千八百七十体
 をここ服部霊園に合葬しましたがこ
 のたびこの塔を建立し大阪全市の戦
 災死者の霊を弔うこととしました

昭和三十三年九月建立
 大阪市

44 三国航空機材戦災死者慰霊碑



基本情報

所在：三国金属工業株式会社 敷地内
住所：大阪府豊中市豊南町西4-7-20
(阪急電鉄 庄内駅 徒歩10分)
連絡先：三国金属工業株式会社 総務部 06-6332-0251
建立者：三国金属工業株式会社
建立年：昭和32年

碑文

昭和二十年六月七日

戦災者慰霊碑

45 憶念



基本情報

所在地：豊中墓地
住所：大阪府豊中市岡上ノ町4-5
(阪急電鉄 豊中駅 徒歩6分)
連絡先：不明
建立者：旧豊中中学校二十回生
建立年：昭和49年6月2日

碑文

憶念

説明文

(故人名)

明記不忘、我が師、我が友、
時に昭和二十年六月七日午前十一時
三十分頃、三國航空機株式会社に
学徒動員中、米軍機の爆撃を
受け、あたら散華、共に死す
べき条件のもと、今日を生きて
いのちの不思議をあらためて思う
君の無言の願は亦、私の願でもある。

昭和四十九年六月二日
旧豊中中学校二十回生建立

46 てしまの塔



基本情報

所 在：豊島公園
住 所：大阪府豊中市曾根南町1
(阪急電鉄 曾根駅 徒歩7分)
連 絡 先：豊中市 健康福祉部 地域福祉室 06-6858-2220 (直通)
建 立 者：豊中市
建 立 年：昭和43年3月20日

碑 文

てしまの塔

われわれは 祖国のために 尊い
生命をささげた 戦没者ならびに戦災
死者の霊を慰め かつ そのめいふ
くを祈るため ここに市民の儀表と
して てしまの塔 を建立し 諸霊
の遺徳をたたえ あわせて人類恒久
の平和を祈る

昭和43年3月20日

豊中市

題字 大阪府知事 左藤義詮

説 明 文

てしまの塔

この「てしまの塔」は、戦争による犠牲者を偲び、そのご冥福を祈ると共に、人類の恒久平和を願って、昭和四十三年（一九六八年）三月二十日に建立したものである。

過去の戦争では多くの人びとが、尊い命を失われました。特に第二次世界大戦では戦地に赴き亡くなられた人、空爆により亡くなられた人など、全国で三百万人を超える人びとが亡くなられました。

豊中市は、地球上からすべての争いがなくなり、全世界の人びとが安心して暮らせる社会の実現を願っております。この「てしまの塔」の願いが一日も早く実現することを望んでやみません。

豊中市

「てしまの塔」の名称について

明治維新当時、廃藩置県後村々の行政機構が改革され数次にわたる行政区画の編成替えなどが行われ、明治22年(1889年)4月、地方自治制が開かれ摂津国豊島郡とよばれ、このとき豊島郡の中央に位置するところから豊中の地名が生れたといわれます。

またこの豊島(てしま)の名は遠く和銅5年(712年)大万呂が撰上した古事記中巻からすでに文献にみられております。

このように豊中にとっては最もゆかりの深い「てしま」は現在もお市域内に残り、この塔の建立される地も、豊島、中豊島として親しまれております。

47 慰霊碑



基本情報

所在：二軒家公園
住所：大阪府豊中市豊南町南4-3
(阪急電鉄 庄内駅・三国駅 徒歩15分)
連絡先：都合により記載せず
管理：豊南校区自治会連合会、豊南校区福祉委員会
建立年：昭和55年10月

碑文

【表】

慰霊碑

大阪府知事 岸昌書

【右側面】

豊南校区自治会連合会

【左側面】

昭和五十五年十月建之

【裏】

この地区に在住又は縁故者の
昭和20年6月7日の空爆犠牲者170余柱
戦歿英霊
水難、交通事故等の遭難者
の精霊の安らかに鎮まりますことをねがって

48 高槻市戦没者追悼式



開催概要（平成23年度）

歳事名：高槻市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む

会場：現代劇場 文化ホール3階

（阪急電鉄 高槻市駅 徒歩5分）

日時：平成23年11月9日（水） ※例年11月第2水曜日開催

参列者数：196人

連絡先：高槻市 保健福祉部 保健福祉総務課 072-674-7162（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式の辞：副市長
2. 国歌斉唱：一同起立
3. 黙とう：一同起立
4. 式辞：市長
5. 来賓追悼の辞：市議会議長、府知事職務代理者（副知事）、府遺族連合会会長
6. 追悼電報披露：○電報読上げ 府議会議長、市長会長、市議会議長会長
○芳名のみ14名（近隣市 市長及び各市議会議長）
7. 献花：市長、来賓、遺族（参列者全員）
8. 遺族代表謝辞：市遺族会会長
9. 閉会の辞：保健福祉部長

式辞（平成23年度）

本日ここに、ご遺族をはじめ関係各位のご参列のもとに、第59回戦没者追悼式を執り行うにあたり、35万7千人の市民を代表して、戦没者の御霊に対しまして、謹んで追悼の誠を捧げますとともに、ご遺族の皆様方に心から哀悼の意を表します。

幾多の尊き命が失われた先の大戦から66年の歳月が過ぎ去りました。

今日の我が国の繁栄があるのは、祖国の存亡を憂い、国民の安泰と故郷の幸せを願いつつ戦場に散り、心ならずも戦禍に倒れた方々の犠牲の上に築かれているものであることを私たちは、決して忘れてはなりません。

また、最愛の肉親を失われ深い悲しみのなかで、苦難の途を乗り越えてこられたご遺族の方々のご努力に改めて敬意と感謝を表します。

今、世界に目を転じますと、地域紛争やテロが続くなか多くの人命が失われており、また、本年に入ってもアフリカ・リビアの内戦やタイ・カンボジアの紛争など、恒久平和への実現は以前違ひことを痛感いたしております。

私たちは、今一度平和の大切さとその意義をしっかりと考えることが必要であり、未来に向かい大きな可能性を秘めた子どもたちの夢や希望を奪うようなことが、二度とあってはならないと思いを強くしております。

本年3月11日に発生した東日本大震災により、東京電力福島第一原子力発電所等が大きな被害を受け、わが国は再び、核の脅威にさらされました。

今も多くの人々が、仮設住宅や避難所、故郷を離れた仮の住まいで不自由な生活を余儀なくされ、不安な毎日を送られています。本市においては、義援金活動や消防車両の提供、被災地支援活動等復興の支援を行っております。

私自身、岩手県の被災地を訪れ、ボランティア活動を通して、被災の状況を目のあたりにし、終戦直後の苦難を彷彿とさせ、胸がしめつけられる思いがいたしました。

しかしながら、現代に生きる私たちは、戦禍に亡くなられた多くの方々の思いや戦後幾多の困難を乗り越えて今の繁栄を築かれた先人、そして本日ご来場いただきましたご遺族の方々のご労苦に報いるためにも、この未曾有の困難にも立ち止まることは許されません。

高槻市は、これからもさまざまな活動を、教育を通して、平和を愛する文化都市として、未来に責任を持ち、平和を願う心を持ち続け、かけがえのない命を捧げられた戦没者の方々の平和への願いを無にすることなく、戦争の悲惨さや平和の尊さ、生命の尊さを語り継いで参りますことをここにお願い申し上げます。

最後になりましたが、戦没者の御霊が安らかなることを御祈念申し上げると共に、ご参列の皆様方の御多幸と御健勝を心からお祈り申し上げまして、本日の追悼式の式辞とさせていただきます。

平成23年11月9日
高槻市長 濱田 剛史

49 東大阪市戦没者慰霊塔



基本情報

所 在 : 八戸ノ里公園
 住 所 : 大阪府東大阪市中小阪4-7
 (近鉄電車 八戸ノ里駅 徒歩14分)
 連 絡 先 : 東大阪市 福祉部 生活福祉課 06-4309-3182 (直通)
 東大阪市社会福祉協議会 東大阪市遺族会事務局
 06-6789-7202 (社会福祉協議会総務課)
 建 立 者 : 布施市戦没者慰霊塔建設推進委員会
 建 立 年 : 昭和38年8月2日

碑 文

【建物裏手】

戦没者慰霊塔

【建物入口前】

東大阪市戦没者慰霊塔

説 明 文

この慰霊塔は祖国のために
 生命をささげた戦没者並びに
 戦災死者の霊を慰めかつその
 めいふくを祈るためひろく浄
 財の寄贈によりて建てられた
 ものである
 われわれは諸霊のみまえにお
 いて あやまちなく恒久の平
 和を祈願するものである

昭和三十八年八月二日
 布施市戦没者慰霊塔建設推進委員会
 会長 上野義雄

50 守口市戦没者追悼式



※写真提供 守口市

開催概要（平成23年度）

歳事名：守口市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：守口文化センター エナジーホール
 （京阪電鉄 守口市駅 徒歩3分）
 日時：平成23年10月25日（火） ※例年10月下旬開催
 参加者数：140人
 連絡先：守口市 福祉部 総務課 06-6992-1221（代表）

式次第（平成23年度）

1. 開式のことば：守口市福祉部長
2. 霊名簿安置
3. 国歌斉唱
4. 黙とう
5. 式辞：守口市市長 西端勝樹
6. 追悼の辞：守口市議会議長、大阪府知事、衆議院議員、大阪府遺族連合会、市遺族会会長
7. 献花：市長、来賓、遺族代表
8. 霊名簿返納
9. 閉会のことば：福祉部長 橋本素男

式辞（平成23年度）

追悼の辞

本日ここに、守口市戦没者追悼式を挙行するにあたり、戦没者の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦が終わりを告げてから、六十六年の歳月が過ぎました。

国内各地はもとより、祖国を遠く離れた異郷の地において、家族への強い思いを抱きつつ、またわが国の行く末を案じながら慄れられました皆様の無念、如何ばかりかと痛恨の情、胸に迫ってまいります。

現在、私たちが享受している平和と繁栄は、あなたがた戦没者の皆様の尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはなりません。

また、本年、わが国では、東日本大震災をはじめ、台風の影響により、多くの人命が犠牲となりました。

これらの災害の犠牲となられました方々に対し、哀悼の意を表しますとともに、被災地の方々が1日も早く復興を遂げられますことを切に願ってやみません。

さて、今日の世界に目を転じますと、中東における長期独裁政権の崩壊など、一定の民主化の動きが表われているところですが、未だ絶えることのない民族間の対立や頻発するテロ行為、また、核兵器の脅威など深刻な課題が山積しており、世界平和への道程は未だ遠いと言わざるを得ません。

我々は、先の大戦で学びとった多くの教訓を改めて深く心に刻み、次代を担う若い世代に、命の尊さと平和の大切さを伝えとともに、総ての人々が手を携え、共に知恵を絞り、世界の平和に貢献することが、後に続く私たちの使命であると確信いたしております。

私は、一人ひとりの人権が尊重され、健康でいきいきと安全・安心に暮らせる守口市を築きあげるため、全力を尽くす決意を新たにいたしますとともに、ご霊前に額ずき、心からご冥福をお祈りし、ご遺族様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、追悼の言葉といたします。

平成23年10月25日
 守口市市長 西端 勝樹

兵 庫 県

1 旧本庄村 空襲犠牲者慰霊碑



基本情報

所 在 : 本庄墓地
住 所 : 兵庫県神戸市東灘区深江北町5-4
(阪神電車 深江駅 徒歩5分)
連 絡 先 : 不明
建 立 者 : 本庄共有墓地管理委員会、本庄地区有志
建 立 年 : 昭和52年5月11日

碑 文

【表】

旧本庄村 空襲犠牲者慰霊碑

【裏】

昭和二十年五月十一日、六月五日、八月六日の大空襲で、
郷土防衛の村民四三六名の生命を奪われました。
私たちは三十三回目の記念日に碑を建て、尊い犠牲者の
冥福を祈り平和を誓います。

昭和五十二年五月十一日
本庄共有墓地管理委員会
本庄地区有志

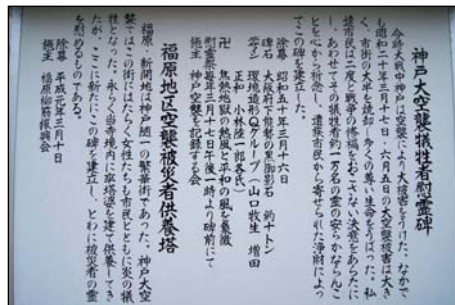
説 明 文

空襲犠牲者慰霊碑

旧本庄村が昭和二十年五月十一日、六月五日、八月六日の大空襲で大半が焦土と化し郷土防衛の村民四百三十六名の生命を奪われました。慰霊碑は三十三回目の記念日に尊い犠牲者の御冥福をお祈りし永久にお祭りするために建てました

昭和五十二年五月十一日
本庄共有墓地管理委員会

2 神戸大空襲犠牲者慰霊碑



基本情報

所 在 : 薬仙寺
住 所 : 兵庫県神戸市兵庫区今出在家町4-1-14
(JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩10分)
連絡先 : 薬仙寺 078-671-1696
建 立 者 : 神戸空襲を記録する会
建 立 年 : 昭和50年3月16日

碑 文

一九四五年三月十七日
神戸空襲戦死者慰霊碑
終戦三十周年記念建之
終戦時神戸市長 中井一夫 書

神戸空襲を記録する会

説 明 文

今時大戦中神戸は空襲により大被害をうけた。なかでも昭和二十年三月十七日・六月五日の大空襲被害は大きく、市街の大半を焼却し多くの尊い生命をうばった。私達市民は二度と戦争の惨禍をおこさない決意をあらたにし、あわせてその犠牲者約一万名の霊の安らかならんことを心から祈念し、遺族市民から寄せられた浄財によってこの碑を建立した。

除幕 昭和五十年三月十六日
碑石 大阪府下能勢の黒御影石 約十トン
デザイン 環境造形Qグループ (山口牧生
増田正和
小林陸一郎各氏)
(まんじ) 焦熱地獄の熱風と平和の風を象徴
慰霊祭 毎年三月十七日午後一時より碑前にて

3 福原地区空襲被災者供養塔



基本情報

所 在 : 薬仙寺
住 所 : 兵庫県神戸市兵庫区今出在家町4-1-14
(JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩10分)
連絡先 : 薬仙寺 078-671-1696
建 立 者 : 福原柳筋新興会
建 立 年 : 平成元年3月17日

碑 文

【表】

南無阿弥陀佛
爲
福原地区 空襲被災者
有縁無縁各霊位追善増進菩提宝塔也

【右側面】

南無阿弥陀佛
偈日
六字名號一遍法 十界依正一遍体
萬行離念一遍證 人中上々妙華

【左側面】

南無阿弥陀佛
經日
神力演大光 普照無際土
消除三垢冥 広済衆厄難

【裏】

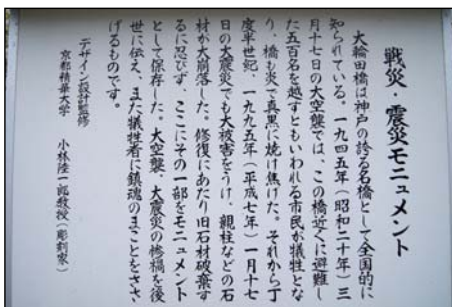
南無阿弥陀佛
維持
平成元年三月十七日施主福原柳筋振興会建之

説 明 文

福原・新開地は神戸随一の繁華街であった。神戸大空襲ではこの街にはたらく女性たちも市民とともに炎の犠牲となった。永らく当時境内に卒塔婆を建て供養してきたが、ここに新たにこの碑を建立し、とわに被災者の霊を慰めるものである。

除幕 平成元年三月十日
施主 福原柳筋新興会

4 戦災・震災復旧モニュメント



基本情報

所 在 : 薬仙寺
住 所 : 兵庫県神戸市兵庫区今出在家町4-1-14
(JR・市営地下鉄 和岬駅 徒歩10分)
連絡先 : 薬仙寺 078-671-1696
建 立 者 : 神戸市建設局
建 立 年 : 平成10年10月

碑 文

1945. 3. 17

1995. 1. 17

説 明 文

【埋込】

大輪田橋炎・震災復旧モニュメント

1945年3月17日の神戸大空襲では、水を求め、大輪田橋に避難した多数の市民が、炎にまかれ犠牲になりました。この橋にはその時の炎で黒く焼け焦げた跡が、今も残っています。そして50年後の1995年1月17日の阪神・淡路大震災により、この橋自体の親柱が崩れ落ちる被害を受けました。

ここに、戦災と震災を経験した「生き証人」でもある、大輪田橋の石材をモニュメントとして再構成し、私たちの記憶に永くとどめるとともに、鎮魂の意を示すものです。

1998年10月

【案内板】

戦災・震災モニュメント

大輪田橋は神戸の誇る名橋として全国的に知られている。一九四五年（昭和二十年）三月十七日の大空襲では、この橋近くに避難した五百名を越すともいわれる市民が犠牲となり、橋も炎で真黒に焼け焦げた。それから丁度半世紀、一九九五年（平成七年）一月十七日の大震災でも大被害を受け、親柱などの石材が大崩落した。修復にあたり旧石材破棄するに忍びず、ここにその一部をモニュメントとして保存した。大空襲、大震災の惨禍を後世に伝え、また犠牲者に鎮魂のまことをささげるものです。

デザイン設計監修
京都精華大学 小林陸一郎教授（彫刻家）

5 神戸空襲犠牲者合同慰霊祭



※写真提供 神戸空襲を記録する会



開催概要（平成23年度）

歳事名：神戸空襲犠牲者合同慰霊祭

会場：薬仙寺

(JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩10分)

日時：平成23年3月17日(木) ※例年3月17日開催

参加者数：約150人

連絡先：神戸空襲を記録する会

式次第（平成23年度）

1. 司会挨拶
2. 黙祷：薬仙寺住職の逝去（平成22年10月）、阪神・淡路大震災の犠牲者、東日本大震災の犠牲者/神戸空襲・戦災犠牲者を悼み黙祷
3. 読経
4. 主催者挨拶：昨年からの神戸市との交渉経緯の報告など <神戸空襲を記録する会 代表>
5. 会からの報告：会則の再確認と昨年度の決算とモニュメント建設準備委員会の立ち上げ
6. 体験談・感想：参加者の中から数名
7. 朗読：「ムツとわたし」 <あおぞらドラマカンパニー>
8. 合唱：組曲「火垂るの墓」、組曲「阪神・淡路大震災」その他 <神戸市役所センター合唱団>
9. 終わりの挨拶
10. 読経、焼香、献花

式 辞（平成23年度）

今年もこうして、皆さんの元気な顔にお会いすることができましたことをとてもうれしく思います。そして今年初めてここに来てくださった皆様、こんな寒い中をお集まりいただいて本当にありがとうございます。

昨年の慰霊祭以後、一年間の間に私達の会には嬉しいことがありました。神戸市が、私たちが進めてきました空襲で亡くなった方のお名前を集めるという事業に関心を示してくださいました。

たまたま去年は戦後65年の年でした。私達の会にとって記念すべき年となりました。一步神戸市が前進してくださった。ただ私たちが願っていることと、神戸市が協力してくれようとしていることには大きな隔たりがあります。とにかく関心を示していただいたことに感謝して、少しでも私たちの願いに近づいていただくように、私たちみんなで粘り強く交渉を続けていこうと思います。

このように、戦後66年も経った今年も神戸空襲犠牲者合同慰霊祭に、席もないほどに集まってくださったみなさま方の想いに後押しされて、夢の実現に向っていきたいと思います。

どうぞ今日半日、自然災害でもない、紛れも無い人災・戦争という悲しい出来事の為に命を奪われた人たちに想いを寄せていただき、共に世界の平和を祈りたいと思います。

神戸空襲を記録する会 代表

6 大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント



基本情報

所 在 : 大輪田橋(兵庫運河)
住 所 : 兵庫県神戸市兵庫区中之島2
(JR・市営地下鉄 和岬駅 徒歩13分)
連 絡 先 : 都合により記載せず
建 立 者 : 神戸市建設局
建 立 年 : 平成10年10月

説明文

大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント

平清盛公ゆかりの地名にちなむこの大輪田橋は、1924年の竣工以来、二度の大きな災害に遭っています。1945年3月17日の神戸大空襲では、水を求め、この橋に避難した多数の市民が、炎にまかれ犠牲になりました。橋にはその時の炎で黒く焼け焦げた跡が、今も残っています。そして50年後の1995年1月17日の阪神・淡路大震災により、この橋自体の親柱が崩れ落ちる被害を受けました。ここに、戦災と震災を経験した「生き証人」でもある親柱をモニュメントとして再構成し、その時節の冬の星座をかたどった照明によって、私たちの記憶に永くとどめるとともに、鎮魂の意を示すものです。

1998年10月
神戸市

大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント

1945年3月17日の神戸大空襲では、水を求め、大輪田橋に避難した多数の市民が、炎にまかれ犠牲になりました。この橋にはその時の炎で黒く焼け焦げた跡が、今も残っています。そして50年後の1995年1月17日の阪神・淡路大震災により、この橋自体の親柱が崩れ落ちる被害を受けました。ここに、戦災と震災を経験した「生き証人」でもある、大輪田橋の石材をモニュメントとして再構成し、私たちの記憶に永くとどめるとともに、鎮魂の意を示すものです。

1998年10月

7 戦災殉難者慰霊碑



基本情報

所在：大輪田橋 東たもと
住所：兵庫県神戸市兵庫区中之島2
(JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩13分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：出在家町協議会
建立年：昭和22年9月(平成8年10月 再建)

碑文

【表】

戦災殉難者慰霊碑

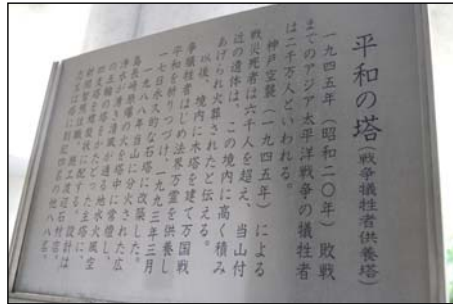
【裏】

昭和二十二年九月建之

出在家町協議会

平成八年十月再建

8 神戸空襲犠牲者之霊供養塔



基本情報

所 在： 妙法華院
住 所： 兵庫県神戸市兵庫区永沢町4-5-8
(阪神電車・阪急電鉄・神戸電鉄 新開地駅 徒歩1分)
連絡先： 妙法華院 078-575-2608
建 立 者： 妙法華院
建 立 年： 平成5年3月17日

碑 文

【右前塔・表】

神戸空襲犠牲者之霊供養塔

説 明 文

平和の塔（戦争犠牲者供養塔）

一九四五年（昭和二十年）敗戦までのアジア太平洋戦争の犠牲者は二千万人といわれる。

神戸空襲（一九四五年）による戦災死者は六千人を超え、当山付近の遺体は、この境内に高く積みあげられ火葬されたと伝える。

以後、境内に木塔を建て万国戦争犠牲者はじめ法界万霊を供養し平和を祈りつづけ、一九九三年三月一七日永久的な石塔に改築した。

一九八八年当山に分火された広島長崎原爆の火を塔内に常燈し、浄水が湧き清風が通る地水火風空の五輪の塔をかたどった主塔に、四支塔を螺旋状に配する。設計は新聞智照住職。施工渡辺石材店。志主は塔に刻記四名の他八八名。

戦災の石碑と石燈籠

一九四五年（昭和二十年）三月十七日の神戸大空襲で当山は全焼した。この石碑は焼夷弾（しょういだん）の直撃を受け、さらに本堂庫裡等全焼の猛火につつまれ、上部が欠け、もろくなっている。石碑前にあった石燈籠（今は移して堀ぎわにある）も刀で削いだように笠が割れている。戦争を証言する記念物として、そのまま残している。

かたわらのクスノキは焼け株だけが残っていたのが、根が生きていて翌年芽をふき、戦後ここまで成長した。

9 五人の乙女の慰霊碑



基本情報

所 在 : 柳原天神社
住 所 : 兵庫県神戸市兵庫区東柳原町1-12
(JR兵庫駅 徒歩8分)
連絡先 : 柳原天神社 078-651-1283
建 立 者 : 日本電信電話株式会社
建 立 年 : 平成2年8月

碑 文

慰霊

(故人名)

昭和20年3月17日未明の空襲により、この地において戦に殉じた神戸中央電話局兵庫分局職員の霊をまつる。

なお、このレリーフは神戸中央電話局兵庫分局の壁面に取付けられていたもので大正11年頃、当時の分離派建築会の作といわれており大正ロマンチズムの薫りを今に伝えている。

建立 平成2年8月

日本電信電話株式会社

神戸支店長 小出美孝

10 慰靈碑



基本情報

所 在：小野八幡神社
所 所：兵庫県神戸市中央区八幡通 4-1-37
（市宮地下鉄 三宮・花時計前駅 徒歩 3 分、神戸新交通 貿易センター駅 徒歩 3 分、JR 三ノ宮駅 徒歩 7 分、阪急電鉄・阪神電車・市宮地下鉄 三宮駅 徒歩 8 分）
連絡先：小野八幡神社 078-221-5414
建立者：日本電信電話公社
建立年：不明（平成 7 年以降に神社に移される）

碑文

慰靈

日本電信電話公社 總裁 米澤 滋 書

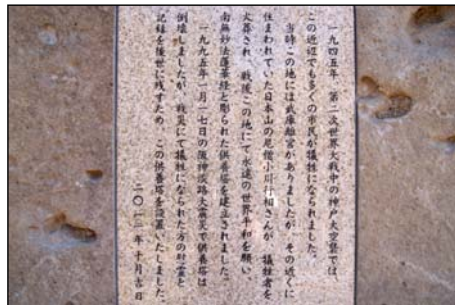
(故人名)

昭和20年3月17日未明の空襲により

この地において恥に殉じた神戸中央

電話局葺合分局職員の霊をまつる

11 戦災者供養塔



基本情報

所 在 : 神戸市立須磨離宮公園
住 所 : 兵庫県神戸市須磨区東須磨 1-1
(山陽電車 月見山駅・須磨寺駅 徒歩 10 分)
連 絡 先 : 神戸市立須磨離宮公園 078-732-6688
建 立 者 : 神戸市
建 立 年 : 平成 23 年 10 月

碑 文

【表】

戦災者供養塔

【裏】

一九四五年、第二次世界大戦中の神戸大空襲では
この近辺でも多くの市民が犠牲になりました
当時この地には武庫離宮がありましたが、その近くに
住まわれていた日本山の尼僧小川行相さんが、犠牲者を
火葬され、戦後この地にて永遠の世界平和を願い、
南無妙法蓮華経と彫られた供養塔を建立されました。
一九九五年一月一七日の阪神淡路大震災で供養塔は
倒壊しましたが、戦災にて犠牲になられた方の慰霊と
記録を後世に残すため、この供養塔を設置いたしました。

二〇一一年十月吉日

12 姫路市戦没者追悼式



※写真提供 姫路市

開催概要（平成23年度）

歳 事 名：姫路市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む

会 場：姫路市市民会館 大ホール

(JR姫路駅・山陽電車 山陽姫路駅 徒歩15分)

日 時：平成23年8月15日(月) ※例年8月15日開催

参列者数：約750人

連絡先：姫路市遺徳顕彰会(事務局 姫路市福祉総務課内) 079-221-2303 (直通)

式次第（平成23年度）

1. 開 式
2. 国歌斉唱
3. 黙 とう：黙とう、天皇陛下のおことば ～「全国戦没者追悼式の実況放送」～
4. 式 辞：姫路市遺徳顕彰会会長
5. 追悼の辞：姫路市議会議長、兵庫県知事、兵庫県遺族会姫路支部長
6. 献 花
7. 閉 式

式 辞（平成23年度）

(略)

先の大戦が終わりを告げ、早くも66年の歳月が過ぎ去りました。

苛烈を極めた、あの戦いの中で、祖国の安泰を願い、故郷に残した愛しい家族を案じつつ、戦地に赴き、戦禍に倒れ、再び郷土にまみえず、散華された戦没者の方々や、何ら抵抗の術もなく、空襲のため尊い犠牲となられた方々のご心情に思いを馳せ、最愛の肉親を失われた、ご遺族の深い悲しみと、戦後の長いご労苦を思うとき、今なお、深い悲しみが胸に迫ってまいります。ここに、心から哀悼の意を表します。

(中略)

私たちは、過去を謙虚に振り返り、戦争の惨禍と平和の尊さを、幾世代にもわたって継承するとともに、平和で希望に満ちた共生の社会を建設していくことが、私たちに課せられた重大な責務であり、犠牲者となられた方々の御霊をお慰めすることになるものと確信いたします。

本日の式典にあたり、先の大戦から学びとった多くの教訓を、改めて深く心に刻み、市民の皆様とともに、姫路の更なる発展を目指して、一層精進することをお誓い申し上げますとともに、御霊の安らかならんことと、ご遺族の今後のご平安とご健勝を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成23年8月15日

姫路市遺徳顕彰会 会長 石見 利勝

※一部抜粋

13 空爆の碑



基本情報

所 在 : J R京口駅前ロータリー
 住 所 : 兵庫県姫路市城東町字北神屋418-2
 (J R京口駅 徒歩1分)
 連絡先 : 都合により記載せず
 建 立 者 : 城東地区連合自治会
 建 立 年 : 平成9年3月

碑 文

空爆の碑

この地は川西航空機姫路製作所跡地である。昭和二〇年（一九四五）六月二二日午前十時三〇分頃、米国B二九爆撃機九機の空爆により一瞬に焦土、死礫の山と化した。川西航空七四名、周辺住民六七名、等三四一名の死者、行方不明一〇名、重軽傷三五〇名、罹災者一〇、二二〇名の被害を受けた。又同年七月三日深夜焼夷弾による姫路大空襲により死者一七三名、行方不明四名、重軽傷一六〇名、罹災者四五、一八二名の被害を受け市内が焦土と化した。尚当時の人口は一〇七、六四三名であった。私たちは犠牲者の霊を慰めると共に人命の尊厳と平和を希求し、戦争が地球上からなくなる事を心に念じ平成八年中核都市指定を記念してこれを建立する。

平成九年（一九九七）三月

城東地区連合自治会

14 平和塔



基本情報

所 在 : 西長洲八幡神社
住 所 : 兵庫県尼崎市西長洲町2-15-8
(JR尼崎駅 徒歩13分)
連絡先 : 西長洲八幡神社 06-6429-2830
建 立 者 : 西長洲六人会
建 立 年 : 昭和37年8月15日

碑 文

【表】

平和塔

【裏】

昭和二十年六月一日第二次世界大戦ノ折
西長洲一帯焼土ト化シ三百余名ノ犠牲者
ヲ出(俗字)シタ之等ノ霊ヲ慰メル爲此處ニ平和
ノ塔ヲ建設ス
昭和三十七年八月十五日

【台座】

発起人
(個人名)
後援
尼崎市

説明文

平和塔建立の由来

太平洋戦争末期 昭和二十年六月一日午前十時
尼崎市西長洲地区空爆死没者三百余柱の御霊を
始め大東亜戦争に於いて戦死され靖国の神として
祭祀されている十九柱の御霊を此の平和塔に鎮め
西長洲の里の平和の守護として建立す
昭和三十七年八月十五日 西長洲 六人会
慰霊祭 六月一日

15 明石市戦没者戦災死没者追悼式



※写真提供 明石市

開催概要（平成23年度）

歳 事 名：明石市戦没者戦災死没者追悼式

会 場：明石市立市民会館 中ホール
(JR明石駅 徒歩10分)

日 時：平成23年10月19日(水) ※例年10月中～下旬開催

参列者数：149人

連絡先：明石市 福祉部 福祉総務課 078-918-5025 (直通)

式 次 第（平成23年度）

1. 開 式
2. 国 歌 斉 唱
3. 黙 と う
4. 追 悼 の こ と ば：明石市長
5. みたまに捧げることば：明石市議会議長、兵庫県遺族会明石支部長、兵庫県知事、兵庫県遺族会会長
6. 献 茶：兵庫県遺族会明石支部婦人部長
7. 献 花：明石市長、来賓、遺族・一般
8. 吟詠「九段の桜」
9. 勇士をとむらう歌斉唱
10. 謝 辞：兵庫県遺族会明石支部二見分会長
11. 閉 式

式 辞（平成23年度）

追悼の言葉

本日、ここに、「明石市戦没者・戦災死没者追悼式」を執り行うに当たり、戦没者・戦災死没者の皆様の御霊の前に、謹んで追悼の言葉を捧げます。

時の流れは早く、先の大戦が終わりを告げてから66年の歳月が過ぎました。我が国においては、時の経過とともに、悲惨な戦争の記憶が薄れつつあると言われておりますが、今日のこの平和は、多くの尊い犠牲のもとに築かれたものであることを忘れてはなりません。

先の大戦のなかで、多くの方々が、ただひたすら祖国の繁栄と家族の安泰を願いつつ、その尊い命を捧げられました。ここに、戦争によって志半ばで命を落とされた方々に対し、心からご冥福をお祈り申し上げるとともに、敬意と感謝の誠を捧げます。

また、ご遺族におかれましては、最愛の肉親を失われた深い悲しみを胸に、幾多の困難を乗り越えてこられたことと存じます。その計り知れないご努力に対し、深甚なる敬意を表します。

あれから今日にいたるまで、わが国は直接戦火を体験することなく、平和と繁栄を享受してまいりました。

この平和を永続させるため、明石市におきましては、核廃絶を訴える世界約4,800都市の首長で構成する「平和市長会議」に本年8月1日付で加盟いたしました。当会議への加盟を機に、今後とも真に平和を希求する都市として、人類の繁栄と福祉の向上のための取り組みを続けていくことを、お誓い申し上げます。

一方、本年3月に未曾有の巨大地震が東北地方を襲い、数多くの方々が犠牲になりました。また、東北各県の沿岸の街は壊滅的な被害を受け、今なお被災地では、過酷な状況が続いております。

この国難ともいべき事態を、国民が一つになって乗り越えていかなければならないことは、先の大戦後、国民が力を合わせて復興に取り組んできた姿がよく示しているところであります。

今後も、だれもが安全安心に暮らせる社会を実現していくことこそ、平和を願い続けてこられた先人たちのご遺志に応えるための道だと信じ、市民の皆様が安全で安心して暮らし続けられるよう、誠心誠意取り組んでまいりますことを、固くお誓い申し上げます。

ここに謹んで御霊のご冥福をお祈り申し上げ、郷土の繁栄と市民の平安にご加護を賜らんことを願い、あわせて、ご参列の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げまして、追悼のことばとさせていただきます。

平成23年10月19日

明石市長 泉 房穂

16 明石空襲の碑



基本情報

所 在 : 明石公園内 兵庫県立図書館 脇
住 所 : 兵庫県明石市明石公園1-27
(JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩5分)
連 絡 先 : 都合により記載せず
建 立 者 : 明石空襲の碑をつくる会
建 立 年 : 昭和60年8月15日

碑 文

【表】

明石空襲の碑

【裏】

1985.8.15建立
製作 明石空襲の碑をつくる会
デザイン 丹下寿一
施工 川辺石材美術工業所

説 明 文

明石の空襲 (明石空襲の碑をつくる会調べ)

回	年月日	時刻	機数	投弾個数	被爆地域	死者
1	20.1.19	13:51	8	250キロ	川崎航空機工場	263
		13:55	8	爆弾ほか	大蔵・小久保	
		14:05	17	531	船上・林・玉津	69
		14:10	30		大久保ほか	
2	20.6.9	9:54	9	2トン	明石公園	269
		9:55	9	爆弾ほか	上ノ丸・太寺	
		9:56	7	60	川航東南船上	373
3	20.6.22			500キロ	川航・林・宮ノ下	
				爆弾ほか	門田・高石 和坂・鳥羽	25
4	20.6.26	9:51			公園前・鷹匠町	
		9:56		69	三番町ほか	142
5	20.7.7	0:15	1~2	油脂焼夷	市街地の	
		1:35	機ずつ 連続	弾約7万	63%焼失	355
6	20.7.28		3	250キロ2	明石川水道管橋	
死者計						1496

記

平成七年(一九九五)一月十七日午前五時四十六分、マグニチュード七・二の兵庫県南部大地震により、ご覧のように約四トンもの「明石空襲の碑」も、約五センチ北東に移動しました。復元工事とも考えましたが、このあたりの大震災による地盤変異の証しとして遺すことにしました。

なお、平成九年三月発行、明石市資料には、次のように解釈できる記述と参考図が載っています。

「明石周辺の地盤は、北東方向に六〇〜七〇センチ変位したものと考えられる。」

平成九年(一九九七)八月十五日
明石空襲を記録する会
川辺石材美術工業所寄贈

17 太平洋戦争明石市被爆 犠牲者無縁之慰霊塔



基本情報

所 在 : 大聖寺
 住 所 : 兵庫県明石市上ノ丸1-18-18
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
 連絡先 : 大聖寺 078-912-5929
 建 立 者 : 大聖寺
 建 立 年 : 昭和49年6月9日

碑 文

太平洋戦争明石市被爆 犠牲者無縁之慰霊塔

18 慰霊塔供養祭



※写真提供 大聖寺

開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 慰霊塔供養祭
 会 場 : 大聖寺
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
 日 時 : 平成23年6月4日(土) ※例年6月4日前後の日曜日開催
 参 列 者 数 : 10人
 連絡先 : 大聖寺 078-912-5929

概 要

第二次世界大戦と大聖寺

大戦中、明石には「飛燕」という名の戦闘機を作っていた川崎航空機株式会社(現在の川崎重工株式会社)の工場があり、それは「ゼロ戦」と並び称される日本空軍の戦闘機でした。
 その戦闘機を作るために関西一円から「学徒動員」と呼ばれる青少年が集められていて、21世日康上人は彼らを訓練するという縁がありました。明石はその工場があったために、昭和20年1月19日、大阪より神戸より早く空襲を受け、従業員をはじめ大勢の学徒が亡くなりました。川崎航空は住職との縁で元で当時「三国寺」と称していた大聖寺の境内に慰霊碑を建て、その内側には明石市が建てた慰霊碑があるという、珍しい二重霊があります。
 昭和49年6月9日、22世日康上人は、その後何度も空襲にあって無縁仏になった霊も含めての供養と、世界平和を願って慰霊塔を建てようと発願しました。
 明石の町を印刷太鼓を打ちながら歩いてその霊を慰め、川崎重工と明石の一般市民と地信徒が一致協力して、高さ5.5メートルの「太平洋戦争明石市被爆犠牲者慰霊塔」が完成したのです。
 この塔の上に安置されているのが、青銅製の十一面観音像です。

十一面観音は頭に11の小面を持つ観音様で、人々の悲しみ・苦しみ・悩みなどを救う現世利益の本尊として親しまれています。頭の周りに菩薩像が10体あり、前3面は慈悲の相。左3面は瞋怒(しんぬ)の相。左3面は白牙上出相。後ろの1面は暴悪大笑相といい、頂上の仏面は仏会を現しております。

左手には蓮の華をさした簪を持ち、右手には日蓮宗の数珠を持つという珍しい像であります。(普通は、てのひらを前面に向けた印相をとっている)この慰霊塔は阪神淡路大震災でもびくともしませんでした。
 建設当時観音像を倒した所は「震度5位でも大丈夫ですから、上に乗せておくだけで良いですよ」といわれましたが、建設会社は「もし何かがあったら大変だ」ということで、しっかりと太いボルトで観音像を安置しました。そのおかげで観音像は倒れることもなくすみました。
 建立しようと協力した人の心と、作る人の心と、拝む人の心がこの慰霊塔を震災から護ってくれたのでしょう。

毎年、1月19日には川崎重工関係者の慰霊祭が行われ、午後1時56分の空襲の時間には、遺族の方々と1分間の黙祷が捧げられ6月9日前後の日曜日に「慰霊塔供養祭」が行われています。
 戦争の悲惨と、戦争を憎む心を、後の時代まで語り継ぐことが大聖寺の使命だと思っております。

川崎航空機工場
 従業員戦災殉職の精霊
 学徒動員戦災殉職の精霊
 挺身隊員殉職者の精霊 十六室
 小野高等女学院等 学徒動員殉職者ノ精霊
 和歌山田辺高等家政女学院 学徒動員殉職者十一室

明石工場内
 男性一六二名 女性一〇一名 計二六三 室の精霊住

工場外
 六九室住

総計三三二室住
 川崎重工明石工場内殉職犠牲 二五室住

明石工場 発動機工場 機体工場
 防衛兵器工場の三工場の合計三八〇〇〇人従業員 五〇校余りの約一万人の学徒が働く
 合計 四万八千人

出典 : 大聖寺 解説文

19 戦災死者精霊碑



基本情報

所 在 : 大聖寺
住 所 : 兵庫県明石市上ノ丸1-18-18
(JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
連 絡 先 : 大聖寺 078-912-5929
建 立 者 : 明石市
建 立 年 : 昭和21年春

碑 文

昭和二十一年春彼岸

戦災死者精霊碑

明石市建之

20 「川崎航空機 明石工場」の慰霊塔



基本情報

所 在 : 大聖寺
住 所 : 兵庫県明石市上ノ丸1-18-18
(JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
連絡先 : 大聖寺 078-912-5929
建 立 者 : 川崎航空機 (現 川崎重工業)
建 立 年 : 昭和34年

碑 文

【表】

十方法界萬靈

【左側面】

願は此功德を以て 普く一切に及し
我等と衆生と 皆共に佛道を成せん

【裏】

川崎航空機工業株式会社建之

【右側面】

三國寺日成代
昭和三十四年満十三回忌之聖日建之
資 太平洋戦犠牲諸精霊 追善菩提

21 川崎重工業慰霊祭



※写真提供 大聖寺

開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 川崎重工業慰霊祭
会 場 : 大聖寺
(JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
日 時 : 平成23年1月19日(水) ※例年1月19日開催
参列者数 : 3人
連絡先 : 大聖寺 078-912-5929

式 次 第 (平成23年度)

1. 開 会
2. 黙 祷
3. 読経、御回向
4. 閉 会

概 要

昭和20年1月19日 川崎航空機明石工場空爆犠牲者、慰霊供養、
平成23年度 第67回忌追善慰霊供養の為、並びに明石工場殉職者
慰霊供養の為(25霊)

昭和二十年一月十九日 午後一時五十三分、明石川崎航空機工場空爆
B29 爆撃機 8機 53分 第一波
B29 爆撃機 8機 55分 第二波
B29 爆撃機 17機 2時 5分 第三波
B29 爆撃機 30機 2時10分 第四波

B29 爆撃機 計 63機 250K爆弾531個

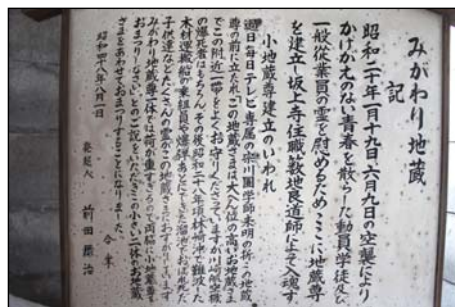
明石工場内戦災殉職犠牲者

男性 一六二名 女性 一〇一名 計二六三名

明石工場外にて 六九名 総計三三二名死亡

出典：大聖寺 解説文

22 みがわり地蔵尊



基本情報

所 在 : 川崎重工業明石工場 横
住 所 : 兵庫県明石市川崎町1-1
(山陽電車 林崎松江海岸駅 徒歩5分)
連 絡 先 : 貴崎高年クラブ 個人であり記載せず
建 立 者 : 個人であり記載せず
建 立 年 : 昭和48年8月1日

碑 文

みがわり

地蔵尊

説 明 文

みがわり地蔵

記

昭和二十年一月十九日、六月九日の空襲により
かけがえのない青春を散らした動員学徒及び
一般従業員の霊を慰めるためここに地蔵尊
を建立し坂上寺住職兼地良道師によって入魂す。

小地蔵尊建立のいわれ

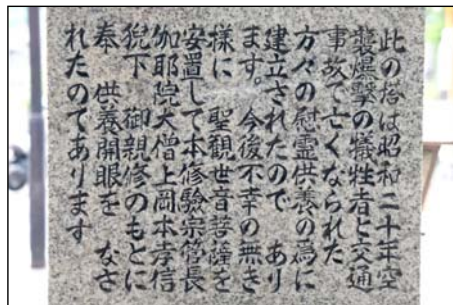
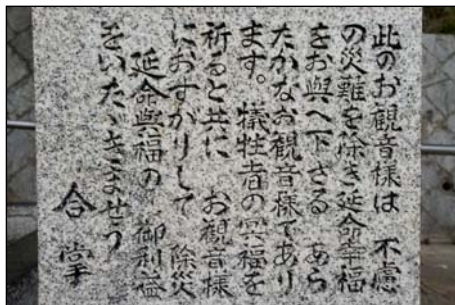
過日毎日テレビ専属の宗川園学師未明の折この地蔵
尊の前に立たれ「この地蔵さまは大へん位の高いお地蔵さま
でこの附近一帯をよくお守りくださっていますが川崎航空機
の爆死者はもちろん、その後昭和二十八年頃林崎沖で難破した
木材運搬船の乗組員や爆弾あとにできた溜池でおぼれ死^{原文です}
子供達などたくさんのお地蔵さまにおすがりしています
みがわり地蔵尊一体では荷が重すぎるので両脇に小地蔵尊を
おまつりしなさい。とのご説をいただきこの小さい二体のお地蔵
さまをあわせておまつりすることになりました。

合掌

昭和四十八年八月一日

発起人 (個人名)

23 西宮市戦災・交通犠牲者供養之塔



基本情報

所 在 : 満池谷墓地
住 所 : 兵庫県西宮市奥畑 6-69
(阪急電鉄 苦楽園口駅 徒歩 15 分)
連 絡 先 : 都合により記載せず
建 立 者 : 西宮中央観音会
建 立 年 : 昭和 53 年 2 月 8 日

碑 文

【表】

西宮市 戦災 交通 犠牲者供養之塔

西宮市長 奥五一書

【右側面】

西宮中央観音会 会長黒崎晴雄建之
西宮市今津水波町二ノ八

【左側面】

昭和五十三年二月八日

【裏】

奉 開眼供養
本修験宗管長伽耶院
大僧正 岡本孝信

説明文

【表】

此のお観音様は 不慮の災難を除き延命幸福をお與へ下さる あらたかなお観音様であります。犠牲者の冥福を祈ると共に お観音様におすがりして 除災延命幸福の 御利益をいただきます

合掌

【裏】

此の塔は昭和二十年空襲爆撃の犠牲者と交通事故で亡くなられた方々の慰霊供養の爲に建立されたので あります。今後不幸の無き様に 聖観世音菩薩を安置して本修験宗管長伽耶院大僧上岡本孝信 猊下 御親修のもとに 奉 供養開眼を なされたのであります

24 芦屋市戦没者合同追悼式



※写真提供 芦屋市（写真は平成22年度のもの）

開催概要（平成22年度）

歳事名：芦屋市戦没者合同追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：芦屋市福祉センター 多目的ホール
 （JR・阪神電車 芦屋駅 徒歩15分）
 日時：平成22年10月22日（金） ※5年毎 秋季に開催
 参加者数：約110人
 連絡先：芦屋市 保健福祉部 地域福祉課 0797-31-2121（代表）

式次第（平成22年度）

1. 御 霊 入 場
2. 黙 禱
3. 国 歌 斉 唱
4. 追 悼 式 辞
5. 追 悼 の こ と ば
6. 献 花
7. 追 悼 奉 唱
8. 謝 辞
9. 御 霊 退 場

式 辞（平成22年度）

本日ここに、戦没者八百二十九柱、戦死没者七十六柱、海外引揚物故者四十三柱の御霊をお迎えし、御遺族を始め関係者多数の御参列をいただき、戦没者合同追悼式を執り行うにあたり、芦屋市を代表して、謹んで追悼のことばを申し上げます。

あの惨烈を極めた先の大戦が終わりを告げてから、早や六十五年が過ぎ去りました。祖国の安泰を願い、家族を案じつつ、戦場に散り、戦禍に倒れ、あるいは終戦後、遠い異国の地に斃れ、また、祖国を前に力尽き亡くなられた方々に思いを馳せるとき、愛惜の念は新たなるものが興ってまいります。

ここに、戦没者の皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。また、最愛の肉親を失い、深い悲しみに耐えながら長い苦難の道を歩んでこられましたご遺族の皆様のご心情をお察しいたしますと、今なお痛恨の情が胸に迫ってまいります。戦後、わが国は国際協調を国是として、あの廃墟の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越えてまいりました。

芦屋市においても、市民の皆様の叡智と懸命の努力により、戦災から目覚ましい復興を遂げて参りましたが、その礎には、戦没者の皆様の重く尊い犠牲があり、先人の弛まぬ努力があることを私たちは決して忘れてはなりません。

大戦後の国際社会において、私たちは世界の平和を求めるさまざまな努力を積み重ねてまいりました。そして、二十一世紀こそは平和の世紀となることを、世界の人々が望んでいるにもかかわらず、近年の国際情勢を見ますと世界各地で紛争やテロが続き、貧困と病苦に苦しむたくさんの方々があり、予断を許さない状況が続いております。

このような中、国民の大半が戦争の戦禍を知らない世代となった今日こそ、あの戦争の悲惨な記憶を風化させることなく、命の尊さ、平和の大切さを語り継ぎ、恒久平和を築いていく努力を、私たちは積み重ねていかねばなりません。

最後になりましたが、戦没者の皆様の御霊に感謝申し上げますとともに、とこしえに安らかならんことを念じ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

今後も残されたご遺族の皆様方のご繁栄と恒久平和の実現のため、私たちを見守り続けていただきますようお願い申し上げます。

ご遺族の皆様、そしてご参列いただきました皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、追悼のことばとさせていただきます。

平成二十二年十月二十二日
 芦屋市長 山中 健

25 太平洋戦争空爆殉難者之墓



基本情報

所在：芦屋市立霊園墓地
住所：兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町37-17
(JR・阪神電車 芦屋駅、阪急電鉄 芦屋川駅より 阪急バス「霊園前」下車)
連絡先：芦屋市 保健福祉部 地域福祉課 0797-31-2121 (代表)
建立者：芦屋市戦災死没者遺族会
建立年：昭和45年7月

碑文

【表】

太平洋戦争空爆殉難者之墓

(故人名)

昭和45年7月吉日 芦屋市戦災死没者遺族会建之

【裏】

建立発起人

(個人名)

説明文

【表】

あの苦しかった又悲しかった
戦争体験は絶対に風化
させてはなりません

【裏】

平成五年八月吉日
芦屋市戦災死没者遺族会建之

奈良県

1 榛原空襲供養塔



基本情報

所 在 : 近鉄電車大阪線榛原駅より東へ約500メートルの位置のガード下
住 所 : 奈良県宇陀市榛原萩原2552
(近鉄電車 榛原駅 徒歩5分)
連 絡 先 : なし
建 立 者 : 個人であり記載せず
建 立 年 : 昭和50年7月24日

碑 文

【表】

南無妙法蓮華経 戦争犠牲死者之霊位供養塔

【裏】

昭和五十年七月二十四日建之

(個人名)

【側面】

この犠牲者は昭和二十年七月二十四日午前九時すぎ近鉄大阪線の
電車をねらった米軍戦闘機の機銃掃射の際乗客死者
十一名負傷者二十七名を出した 未だガードコンクリートに無数
の弾こんが当時を思い出されるように残っている

和歌山県

1 戦災殉難者供養塔



基本情報

所 在 : 汀公園
 住 所 : 和歌山県和歌山市西汀丁27
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩15分)
 連絡先 : 都合により記載せず
 建 立 者 : 和歌山市
 建 立 年 : 昭和28年5月

碑 文

【表】

爰寶塔者爲戦災殉難者各靈證大菩提也

【左側面】

願以此功德平等施一切同發菩提心往生安樂國

【右側面】

光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨

【裏】

昭和二十年七月九日没

説 明 文

【表】

太平洋戦争の戦勢いよいよ急迫を告げる昭和二十年七月九日、米軍飛行機B29の大編隊が市に襲撃し、深更三時間に亘って焼夷攻撃を恣にした。

市街は紅蓮の炎に包まれ、焦熱地獄、阿鼻叫喚の巷と化し、此處約千五百坪の空地に避難する市民無慮数千、忽ち大旋風吹き起つて四辺の猛焰凄烈を加へ、無残非業に倒れる市民七百四十八名に上る。

後市内に散在した戦災犠牲者の遺体を併せ、累計千数百体を茶臼に附してここに合同埋葬した。実に和歌山開市以来の大悲惨事にして、戦争の惨虐また説くに忍びない。乃ち供養塔建設會成つて大慈大悲の尊像を安置し、謹みて無辜にして戦争の犠牲となつた市民の靈を慰め、平和の悲願達成を祈るものである。昭和二十八年五月、和歌山市長 高垣善一謹書。

【裏】

昭和廿年七月九日夜太平洋戦争の魔手は遂に南国の理想郷和歌山市の上に伸び家を焼き人を殺し其惨禍恰も地獄図絵に似て眼を掩わしむ其夜難をこの地に避けたる者不幸にして戦火の犠牲となり地下に骨を埋む鬼哭愁々悲しくも亦痛ましき哉。此の戦争犠牲者に対し終戦後の混乱にも拘わらず佛教会の奉仕により法要を怠らず且は有志相寄りて供養塔建設期成會を起し普ねく浄財を集め焦土を整備し努力精進する事久し幸にして久保吉光君の協力により昭和廿八年一月廿五日建設の工成る慈悲菩薩の尊像在します処緑樹の陰に彩花を点ず誠に平和の楽園なり諸霊永へに安住の地とならば関係者の喜びこれに過ぎず刻して萬代に伝えんと爾云。願主 和歌山新聞社 小島正幸。

2 和歌山市戦災死者追悼法要



※写真提供 和歌山市

開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 和歌山市戦災死者追悼法要
 会 場 : 汀公園 戦災死者供養塔 前
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩15分)
 日 時 : 平成23年7月9日(土) ※例年7月9日開催
 参列者数 : 約400人
 連絡先 : 和歌山市戦災遺族会

式 次 第 (平成23年度)

都合により記載せず

式 辞 (平成23年度)

都合により記載せず

3 中橋地藏尊



基本情報

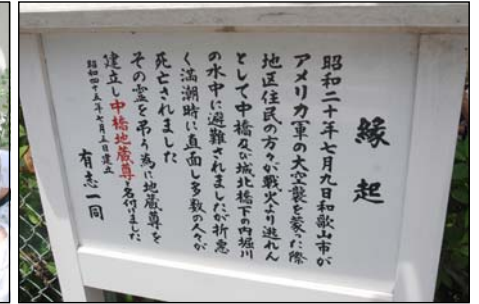
所 在 : 中橋北側
 住 所 : 和歌山市福町
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩10分)
 連絡先 : 都合により記載せず
 建 立 者 : 有志一同
 建 立 年 : 昭和45年7月5日

説明文

縁起

昭和二十年七月九日和歌山市が
 アメリカ軍の大空襲を蒙った際
 地区住民の方々が戦火より逃れん
 として中橋及び城北橋下の内堀川
 の水中に避難されましたが折悪
 く満潮時に直面し多数の人々が
 死亡されました
 その霊を弔う為に地藏尊を
 建立し中橋地藏尊と名付けました
 昭和四十五年七月五日建立
 有志一同

4 和歌山大空襲戦没者追悼法要



※写真提供 和歌山新報社

開催概要 (平成23年度)

歳 事 名 : 和歌山大空襲戦没者追悼法要
 会 場 : 汀公園 戦災死者供養塔 前
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩10分)
 日 時 : 平成23年7月9日(土) ※例年7月9日開催
 参列者数 : 約10人
 連絡先 : 個人であり記載せず

式次第 (平成23年度)

なし

式 辞 (平成23年度)

なし

5 戦災死者慰霊地藏尊



基本情報

所 在 : 長保寺
住 所 : 和歌山県海南市下津町上689
(JR下津駅より 海南市コミュニティバス「長保寺」下車すぐ)
連 絡 先 : 長保寺 073-492-1030
建 立 者 : 下津町戦没者遺族会
建 立 年 : 昭和33年9月

碑 文

【表】

此の世界がいつまでも
平和であります様に
天台座主大僧正 玄秀

【裏】

昭和三十三年 秋彼岸
願主 下津町戦災死者遺族会

【台座・前】

平和地藏尊

【台座・左側面】

昭和二十年當下津町に於ける
戦災死者諸精霊の御冥福と
永劫の安泰を祈り茲に
平和地藏尊を安置し奉る

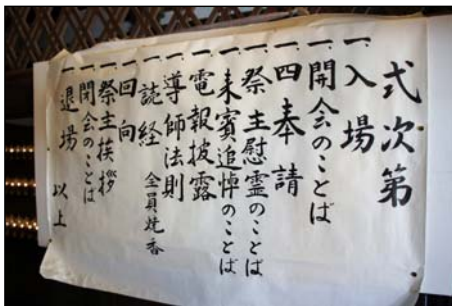
【台座・右側面】

維持昭和三十三年秋彼岸
奉建功德主
下津町戦災死者
遺族会

【台座・裏】

願わくば爾今全世界人類
永遠の平和を成就せしめ給へ
願以此功德 普及於一切
我等與衆生 皆共成佛道

6 下津町戦災死没者慰霊祭



開催概要（平成23年度）

歳事名：下津町戦災死没者慰霊祭

会場：長保寺

（JR下津駅より 海南市コミュニティバス「長保寺」下車すぐ）

日時：平成23年9月24日（土） ※例年9月第4週の土曜日開催

参列者数：約35人

連絡先：海南市下津町戦災遺族会

式次第（平成23年度）

1. 入場
2. 開会のことば
3. 四奉請
4. 祭主慰霊のことば
5. 来賓追悼のことば
6. 電報披露
7. 導師法則
8. 読経 全員焼香
9. 回向
10. 祭主挨拶
11. 閉会のことば
12. 退場

式辞（平成23年度）

慰霊のことば

お彼岸を迎え、ここ国宝長保寺本堂に於いて海南市長 神出正巳様、和歌山県知事 仁坂吉伸様はじめ多数のご来賓の方々をお迎えして慰霊祭を催す事が出来ました。ここに謹んで慰霊の言葉を申し上げます。

昭和20年7月当時の下津町は文化財に囲まれ、農業・漁業・地場産業にと裕福で平和な町でした。何の前触れもなく敵機の無差別爆撃により、老若男女を問わず、尊い命が瞬時のうちに召されました。

その数52名に達したのであります。さながら地獄絵図そのものでした。

安心して銃後の守りを固め、国家に忠誠であった御霊はさぞ無念のことであつたでしょう。残された肉親の思いも、いかばかりであつたか慟悔の念にかられるばかりでした。

戦争というものは、国家の権限において国家が始めるものです。当時の情勢下ではやむおえない事情であるにせよ、銃後の国民の生命・財産を国家の責任において守るのが当然のことだと思ひます。

しかし未だ守れなかったことへの謝罪の言葉すらございません。戦後66年、時は移り日本は平和で豊かな国家を造り上げました。当の海南市下津町に於いても人々の心は和み、住みよい町に成りました。遺族にとっても、肉親と財産を奪われ途方に暮れる毎日でしたが、お互いの協力・努力により以前と変わらぬ、又それ以上の日々を過ごしております。

これも偏に御霊のご加護の賜物と心いたしております。残された遺族にとりましても諸霊の安らかな事をお祈りいたすと共に市当局・コスモ石油レブリカンツ（株）・その他地域の皆様方のご尽力、ご協力をいただきまして永年にわたり慰霊祭を行って参りました。私達の力の続く限り慰霊祭を続けて参ります。

御霊が安らかに御眠り頂かん事をお祈り申し上げ慰霊の言葉といたします。

平成23年9月24日
海南市下津町戦災遺族会 会長

7 有田市戦没者戦災死者追悼式



※写真提供 有田市

開催概要（平成23年度）

歳事名：有田市戦没者戦災死者追悼式
 会場：和歌山県有田市文化福祉センター 大会議室
 （JR箕島駅 徒歩5分）
 日時：平成23年4月29日（金） ※例年4月中旬開催
 参加者数：216人
 連絡先：有田市 市民福祉部 福祉課 0737-83-1111（代表）

式次第（平成23年度）

1. 開 会
2. 国 歌 斉 唱
3. 黙 祷
4. 追 悼 の 詞：有田市長
5. 追悼の詞（来賓）：和歌山県知事、有田市議会議長、和歌山県議会議員、有田市遺族連合会長
6. 電 報 披 露
7. 献 花
8. 副 市 長 挨拶
9. 閉 会

式 辞（平成23年度）

本日ここに、多数のご遺族、ご来賓の皆様をお迎えし、平成23年度有田市戦没者戦災死者追悼式を執り行うにあたり、先の大戦で亡くなられた全ての御霊に対し、謹んで追悼の詞を申し上げます。

諸霊には、先の大戦、また、事変において、勇ましくも戦場に赴かれ、あるいは、銃後の守りのなかで痛ましくも散華されました。

ご家族の祈りもむなく、あなた方は、再び帰らぬ人となりましたが、あなた方の尊い志は、ご遺族はもとより、日本国民一人ひとりの胸に深く刻まれ、家族を愛し、地域の絆を尊び、国を守る心としてしっかり受け継がれてまいりました。

しかし、私たちは、あなた方が我が命を捧げられ、築かれた平和と社会の豊かさに浸り、ややもすると私たちが大切にすべき心を見失いがちであります。

戦後に生まれた世代が、我が国で大半を占める今、戦争体験の風化が危惧されておりますが、先人の方々が、懸命にこの郷土を築き上げていただいたことに感謝の念を持ち、先人の方々に恥じぬよう、その魂、そしてその心を引き継ぎ、未来へとつないでいくことが、今を生きる私たちに課せられた責務として、しっかりと歩みを進めてまいりたいと存じます。

人を大切にする時代、心の時代といわれている今日、そして、未曾有の大災害に見舞われているこのような時こそ、私たちは今まで以上に心を合わせ、手を取り合って、社会の構築に取り組まなければなりません。

私も市長として、市民の皆様の大変なふるさとへの思いを生かし、誰もが心豊かに暮らせる、そして、元気で活力あふれるふるさとづくりに、全身全霊を尽くしてまいりますことを、また、被災地への復興支援を最大限行ってまいりますことをここにお誓い申し上げます。

今は唯、ふるさと有田市の安泰を見守ってくださいますことを願い、御霊の永遠に安らかなご冥福をお祈りし追悼の詞といたします。

平成23年4月29日
 有田市長 望月 良男

8 戦災震災 復興顕彰



基本情報

所 在 : 新宮市民会館
 住 所 : 和歌山県新宮市新宮 7 6 9 6
 (J R 新宮駅より 熊野交通バス「新宮市民会館前」下車すぐ)
 連 絡 先 : 新宮市 総務部 総務課 0 7 3 5 - 2 3 - 3 3 3 3 (代表)
 建 立 者 : 新宮市
 建 立 年 : 昭和 5 3 年 1 2 月 2 1 日

碑 文

【表】

戦災震災
 復興顕彰

昭和五十二年十二月二十一日

新宮市長 瀬古潔建之

【裏】

木田泰夫選

【碑文】

第二次世界戦争による戦
 禍に加え、昭和 2 1 年、南海
 道大地震の二重災害に打ち
 のめされた新宮市が焼土の
 中から立ち上がり、県下屈
 指の近代都市として明るく
 復興を遂げたのは新宮市長
 杉本喜代松翁

をはじめとする先人各位の
 卓抜なる指導力と市民の努
 力に負うところが大きい。

このたび市制施行 4 5 周年
 を記念するにあたり謹んで
 先人の労を謝し、高くその
 功を顕彰する所以である。

9 慰霊塔



基本情報

所 在 : 南谷墓地
住 所 : 和歌山県新宮市新宮字南谷3465
(JR新宮駅より 熊野交通バス「イオン新宮店前」下車 徒歩5分)
連絡先 : 新宮市 生活環境課 0735-23-3333 (代表)
建 立 者 : 新宮市
建 立 年 : 昭和51年9月

碑 文

【表】

慰霊塔

【裏】

昭和十九年十二月七日 震災による罹災者霊

昭和二十年四月七月八月 戦災による罹災者霊

昭和二十一年二月二十一日 震災による罹災者霊

【石柱・表】

戦災・震災犠牲者のみ霊よ安らかに

【石柱・左側面】

昭和五十一年九月 新宮市

全 国

1 太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔



※写真提供 姫路市



基本情報

所 在 : 手柄山中央公園内
 住 所 : 兵庫県姫路市西延末440
 (JR姫路駅・山陽電車 山陽姫路駅より 神姫バス「手柄山中央公園」下車すぐ)
 連 絡 先 : 財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会 (事務局 姫路市福祉総務課内)
 079-221-2303 (直通)
 建 立 者 : 太平洋戦全国戦災都市空爆犠牲者慰霊協会
 建 立 年 : 昭和31年10月26日

碑 文

【表】

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者の
 霊
 此のところに眠る

【裏】

太平洋戦争の惨烈なる兵火は昭和二十年八月十五日わが日本の無條件降伏によって終熄したその後七年の間わが国は連合國軍の占領管理のもとに置かれたが昭和二十七年四月二十八日サンフランシスコ平和條約の發効によって漸く國家主權を回復することができたこれに伴い政府はこの戦争の犠牲となつて死没した軍人軍屬に対する敬弔とその遺族に対する慰藉の方途は一應これを定めたが身に何等の防備なくして無慙なる空爆のなかに敢なく非業の死を遂げた幾多の無辜の市民については全くこれを顧みるところがなかつたここにおいてあの曠古未曾有の戦災を蒙り廢墟と化した全國百十三の都市を糾合して結成された全國戦災都市連盟は昭和二十二年一月その結成以來主力を戦災復興に盡して來たがたゞに形の上の復興のみに終始する事なく政府の施策にもれた戦災都市空爆死没者の慰霊をも併

せ行うべく昭和二十七年五月十七日福井市における第十回定期總會の議に諮り太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔を建立することを決議しその設置場所を全國戦災都市連盟發祥の地でありその本部の所在地たる姫路市とすることに満場一致で決定したかくてこの企てがひとたび世に發表されるや果然全國国民の間に澎湃として共感を呼びおこし各都市をはじめとして小學校の兒童中學校および高等學校の生徒婦人團體のほかあらゆる階層あらゆる職域から翕然として多額の浄財が寄せられた従つてこの慰霊塔はこれら全國國民敬弔哀悼の至情の結晶であるこれが持つ意義は太平洋戦争における不幸なる空爆犠牲者の霊が暖かい同胞愛に抱かれて眠る安息の場であり戦争の悲惨なる真相を知らしめる記念塔であり更に今一つは戦争というものは生ける者も死せる者もこの悲劇に見舞われ國破れて山河あ

りとは雖もかくも荒廢を來しその復興はかくも難行苦行をもたらすものであることを後世に伝え洋の東西を問わず生きとし生けるもの強く相携えて戦争防止への最善を致すべきであることを訓えるものであつてこの慰霊塔に詣ずる者の聲は世界の隅々へまで平和の祈りの聲として響き傳わることを念じて建立されたものである

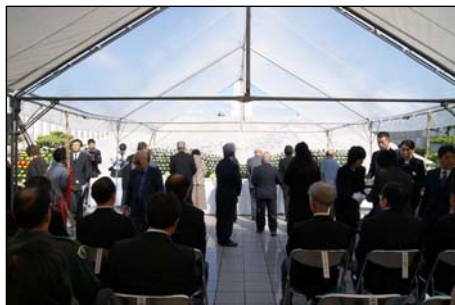
昭和參拾壹年
 全國戦災都市連盟
 名譽會長 衆議院議員 大野伴睦
 會長 姫路市長 石見元秀
 副會長 鹿兒島市長 勝目清
 同 富山市長 富川保太郎
 同 徳山市長 黒神直久
 同 布施市長 鈴木義伸
 同 長岡市長 内山由藏
 支部長 副支部長

説 明 文

太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔

この塔は先の大戦で空爆の犠牲となられた方々への慰霊に資するため、全国からの浄財により1956年(昭和31年)10月26日に建立されました。現在は109都市(東京都を含む)が加盟する財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会が維持管理を行っております。中央の塔身は刀を地中に埋めた形で「もう戦争はしない」ということを表現しており、側柱には建設にかかわった全国戦災都市連盟(113都市加盟)の被災記録などが刻まれています。竣工以来、毎年10月26日に塔前においてこの浄域に眠る加盟都市50万9700余柱の犠牲者を追悼する平和祈念式典を挙げています。

② 太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式



開催概要（平成23年度）

歳 事 名：太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式

会 場：手柄山中央公園

（JR姫路駅・山陽電車 山陽姫路駅より 神姫バス「手柄山中央公園」下車すぐ）

日 時：平成23年10月26日（水） ※例年10月26日開催

参 列 者 数：約500人

連 絡 先：財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会（事務局 姫路市福祉総務課内）
079-221-2303（直通）

式 次 第（平成23年度）

1. 開 式
2. 黙 と う
3. 式 辞：財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会理事長
4. 追悼のこぼ：内閣総理大臣、全国市長会会長、兵庫県知事、姫路市議会議長
5. 献花・千羽鶴
6. 閉 式

式 辞（平成23年度）

式 辞

本日ここに、ご遺族並びにご来賓各位のご参列のもと、平成二十三年度 太平洋 全国空爆犠牲者 追悼平和祈念式を執り行うに当たり、この浄域に眠る、百十三都市五十万九千七百余の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

諸霊は、東京、大阪をはじめ、全国各地を標的とした空爆により、悲しくも犠牲となられたものであり、残されたご遺族の皆様深い悲しみを思うとき、今なお深い悲しみが胸に迫ってまいります。ここに、心から哀悼の意を表します。

数多くの尊き命が失われた先の大戦から六十六年の歳月が過ぎ去りました。当時は空爆のため、全国の主要都市が壊滅的な被害を受け、その機能は麻痺状態に陥りました。

しかしながら、戦後、我が国は焦土の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越え、国民一人ひとりのためめぬ努力により、めざましい発展を遂げ、平和と文化の薫り高い、民主国家に生まれ変わりました。

また、空爆を受けた各都市においても、廃墟と化した戦災の傷跡から、多くの試練を克服し、個性と魅力のある都市づくりに邁進され、発展を遂げてこられました。

この間の試練とご苦労は、筆舌につくし難いものがあつたと拝察いたします。

とりわけ、ご家族を亡くされたご遺族の皆様のご今日の苦勞と悲しみは、とうてい言葉に言い表すことができません。

戦後、年月の経過と共に、戦争を知らない世代が増えておりますが、戦争体験を風化させないよう、この平和で豊かな今日においてこそ、空爆の犠牲となられた方々に思い馳せるとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、平和の尊さを発信し続けていくことが、我々に課せられた重大な責務であります。

全国民の平和のシンボルとして、空高くそびえ立つ、この慰霊塔に列せられた皆様、恒久平和を強く願う祈りが、思いを同じくする全世界の人々に届けられんことを念じつつ、先の大戦で学んだ多くの教訓を改めて深く心に刻み、平和で心豊かな社会の実現のため、一層の努力を捧げることをお願い申し上げますとともに、御霊がとこしえに安らかならんこと、また、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、式辞といたします。

平成二十三年十月二十六日
財団法人 太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会
理事長 石見 利勝

追悼のこぼ（平成23年度）

「平成二十三年度太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式」
における内閣総理大臣の追悼のこぼ

本日ここに、太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式が挙行されるに当たり、謹んで追悼のこぼを申し述べます。

終戦から六十六年が過ぎ去りました。どれだけ月日が流れようとも、心ならずも戦禍の中で亡くなられた犠牲者の方々への思いは、決して消え去ることはありません。

東日本大震災で、私たちは、今ここにある命が一瞬のうちに奪われ、長年培った郷里や家族との暮らしが無残に引き裂かれる不条理を目の当たりにしました。多くの国民が、今、先の大戦に身を置いた同胞たちの悲しみ、苦しみ、そして無念さを、我が事に照らし合わせて、強く思い致しています。

改めて、全国の空爆犠牲者の方々の御冥福を心からお祈りするとともに、最愛の肉親を失った悲しみに耐え、苦難を乗り越えてこられた御遺族の皆様、深く敬意を表します。

我が国は、戦後の廃墟から立ち上がり、幾多の困難を乗り越えながら、平和と繁栄の時代を築いてきました。その原動力となったのは、国民一人一人の平和への願いと、それに裏付けられた各国・各地域との友好関係に他なりません。大震災後に世界各国から寄せられた支援はその証左であり、私たちに希望と勇気を与えています。

平和への思いを分かち合い、世界の人々との「絆」を更に深めていくためにも、悲惨な戦争の教訓を語り継ぎ、広く世界に発信していくことも欠かせません。戦争の惨禍を二度と繰り返すことのないよう、今後とも、各国との友好関係を基礎として、世界の恒久平和の確立に全力を尽くすことを、ここに改めて誓います。

終わりに、皆様方の御平安を心から祈念して、追悼のこぼとします。

平成二十三年十月二十六日
内閣総理大臣 野田 佳彦

